
湘南藤沢の再武装

～観光振興による地域の課題解決～

2016年度 サービス・エンターテインメント班

学部生 阿部慎吾 荒井綺花 高橋昇希
 森川和洋 米倉慎之介

大学院修了生 追分健壘 葛生善江
 中村晶子 服部吉晶

担当教員 田中孝枝 巴特尔 安田震一

目次

| | |
|---|-----|
| はじめに 研究概要・研究の視点・目的 | 368 |
| 第1章 藤沢湘南の概況..... | 371 |
| 第1節 藤沢の歴史 | 371 |
| 第2節 湘南市構想 | 374 |
| 第3節 湘南のイメージ..... | 375 |
| 第4節 本論の湘南藤沢の定義..... | 377 |
| 第2章 湘南藤沢の課題..... | 378 |
| 第1節 日帰り観光地という位置づけの課題 | 378 |
| 第2節 交通渋滞、観光客の飽和状態という課題..... | 379 |
| 第1項 湘南藤沢の交通問題..... | 379 |
| 第2項 トイレ問題..... | 382 |
| 第3項 江の島の飽和状態..... | 382 |
| 第3節 ブランド力不足という課題..... | 383 |
| 第1項 知名度の低さ | 383 |
| 第2項 鎌倉と比較した際のブランド力の貧しさ | 384 |
| 第4節 湘南藤沢の観光資源..... | 386 |
| 第5節 湘南藤沢のインバウンド観光の現状 | 388 |
| 第3章 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技開催地としての意義..... | 391 |
| 第1節 スポーツツーリズムの可能性 | 391 |
| 第2節 オリンピックとスポーツツーリズム | 393 |
| 第3節 セーリングの競技人口 | 393 |
| 第4節 横乗りスポーツの聖地としての潜在力..... | 396 |
| 第1項 サーフィンの潜在力..... | 396 |
| 第2項 スケートボード | 398 |
| 第5節 湘南藤沢ブランドの形成 | 398 |
| 第4章 エキゾチック JAPAN..... | 401 |
| 第1節 歴史観光の資源..... | 401 |
| 第1項 信仰の地としての歴史 | 401 |
| 第2項 東海道の宿場町としての歴史..... | 403 |
| 第3項 精進落としの地としての歴史..... | 404 |
| 第2節 大島航路を利用した新たなルート | 406 |
| 第3節 湘南港沖へのクルーズ船の招致 | 407 |
| 第5章 世界に通用するアジアのさわやか..... | 409 |
| 第1節 横のりスポーツの拠点としてのコンテンツ | 409 |

| | | |
|------|---------------------------|-----|
| 第1項 | セーリング | 409 |
| 第2項 | サーフィン | 410 |
| 第3項 | スケートボード | 410 |
| 第2節 | 資源としての「エコ」 | 411 |
| 第1項 | 環境問題を克服した過去 | 411 |
| 第2項 | 藤沢市地球温暖化対策実行計画 | 411 |
| 第3項 | Fujisawa サステイナブル・スマート・タウン | 412 |
| 第3節 | スポーツ用品産業の巻き込みと人材の育成・活用 | 413 |
| 第1項 | スポーツ用品産業の巻き込み | 413 |
| 第2項 | 人材育成 | 414 |
| おわりに | | 416 |
| 補足資料 | | 419 |
| 1. | フィールドワーク | 419 |
| 2. | KJ法によるイメージの抽出 | 435 |
| 3. | 藤沢市のフィルム・コミッション事業 | 435 |
| 参考文献 | | 438 |
| 謝辞 | | 445 |

図表目次

| | |
|---|-----|
| 図 1：研究概要..... | 370 |
| 図 2：神奈川県における藤沢市の位置..... | 371 |
| 図 3：本論の湘南藤沢の定義..... | 377 |
| 図 4：湘南の電車のアクセス..... | 380 |
| 図 5：藤沢を訪れた外国人観光客の国・エリア別割合..... | 389 |
| 図 6：鎌倉を訪れた外国人観光客の国・エリア別割合..... | 389 |
| 図 7：観光立国推進基本法に基づく観光立国推進基本計画の観光立国の実現に関する 各目標..... | 392 |
| 図 8：スポーツツーリズムによって期待できる効果..... | 392 |
| 図 9：セーリング世界ランキング 男子-470..... | 395 |
| 図 10：湘南藤沢周辺のサーフィンポイント..... | 398 |
| 図 11：エキゾチック JAPAN..... | 401 |
| 図 12：米国からの旅行者の旅行目的..... | 402 |
| 図 13：江の島発着大島／神津島ツアー..... | 406 |
| 図 14：初島の位置..... | 407 |
| 図 15：世界に通用するアジアのさわやか..... | 409 |
| 写真 1：ニエ・アル記念碑..... | 373 |
| 写真 2：フィールドワークで撮ったニエ・アル記念広場..... | 374 |
| 写真 3：フィールドワークを行ったときの江の島の表参道..... | 383 |
| 写真 4：ファミリーマート鎌倉山ノ内店..... | 384 |
| 写真 5：従来のファミリーマートの看板..... | 385 |
| 写真 6：鎌倉高校前踏切..... | 388 |
| 写真 7：郷ひろみ..... | 399 |
| 写真 8：錦織圭..... | 400 |
| 写真 9：妙音弁財天像..... | 403 |
| 写真 10：大阪・岸和田だんじり祭..... | 404 |
| 写真 11：初島トレーラーハウス..... | 407 |
| 写真 12：「Evisen」のスケートボード..... | 414 |
| 写真 13：スケートボードリサイクル..... | 415 |
| 写真 14：片瀬江の島駅..... | 419 |
| 写真 15：観光案内所（正面）..... | 420 |
| 写真 16：観光案内所（左側）..... | 420 |
| 写真 17：観光案内所（中）..... | 421 |
| 写真 18：ヨットハーバー付近の施設..... | 421 |

| | |
|---|-----|
| 写真 19 : ヨットハーバー付近の施設 | 422 |
| 写真 20 : 施設内の広告 | 422 |
| 写真 21 : 施設内の掲示板上 | 423 |
| 写真 22 : 施設内の掲示板上 | 423 |
| 写真 23 : 施設内の掲示板上 | 424 |
| 写真 24 : レンタサイクル用自転車..... | 424 |
| 写真 25 : 大型帆走クルーザー「やまゆり」 | 425 |
| 写真 26 : 神奈川県警察船 | 425 |
| 写真 27 : 昭和 39(1964)年の東京オリンピック記念碑..... | 426 |
| 写真 28 : 弁財天と世界女性群像噴水池 | 426 |
| 写真 29 : 湘南海岸公園① | 427 |
| 写真 30 : 湘南海岸公園② | 427 |
| 写真 31 : セグウェイ試乗 | 428 |
| 写真 32 : デニーズ江ノ島店..... | 428 |
| 写真 33 : ニエ・アル記念碑..... | 429 |
| 写真 34 : 江ノ電鎌倉高校前駅..... | 429 |
| 写真 35 : アニメ「スラムダンク」の舞台となった踏切① | 430 |
| 写真 36 : アニメ「スラムダンク」の舞台となった踏切② | 430 |
| 写真 37 : アニメ「スラムダンク」の舞台となった踏切③ | 431 |
| 写真 38 : i-na cafe 江ノ島店 (イーナカフェ) 江の島ビュータワー2 階..... | 431 |
| 写真 39 : 生しらす丼セット..... | 432 |
| 写真 40 : 釜揚げしらす丼 | 432 |
| 写真 41 : 鎌倉野菜のサラダ..... | 433 |
| 写真 42 : 片瀬江ノ島周辺のお店 | 433 |
| 写真 43 : ブラックソルトソフトクリーム..... | 434 |
| 写真 44 : KJ 法によるイメージの抽出..... | 435 |
| 表 1 : 港湾別のクルーズ船寄港回数 | 408 |

はじめに 研究概要・研究の視点・目的

これまでのサービス・エンターテインメント班の歩みは、以下のとおりである。

平成 21 年(2009)年度「ウォルト・ディズニー、ディズニー社、東京ディズニーランド」

平成 22 年(2010)年度「ディズニー：ディズニーキャラクタービジネスの成功要因に関する考察」

「観光：マンガ・アニメ・ツーリズム」

平成 23 年(2011)年度「ディズニーにおける人材育成」

平成 24 年(2012)年度「ディズニー海外展開戦略」

平成 25 年(2013)年度「顧客・従業員満足度に関する考察～多摩大生が企業を選ぶ際に重要視すること～」

平成 26 年(2014)年度「日本を元気にする IR 和風 IR～対アジア・関西圏統合型リゾート構想～」

平成 27 年(2015)年度「訪日リピーターに日本の魅力を発信し日本通を育てるための SNS の利活用～沖縄観光と日本食文化を例として～」

平成 28 年(2016)年度サービス・エンターテインメント班では 4 月から 2 学期にわたり湘南藤沢のインバウンド観光について研究してきた。衆院内閣委員会は平成 28(2016)年 12 月 2 日、カジノを含む統合型リゾート (IR) ⁽¹⁾の整備を促す「特定複合観光施設区域整備推進法案」を自民党、日本維新の会の賛成多数で可決した (公明党、2016)。IR 法案も通過しカジノを含む IR の構想も求められている。その前段階としての湘南藤沢の資源発掘が今回の研究の目的である。なぜ湘南藤沢なのかというと、藤沢市にある江の島で平成 30 年(2018)年 10 月、平成 31(2019)年 10 月、平成 32 年(2020)年 7 月にセーリングワールドカップが開かれる。そして、平成 30 年(2018)年 7 月プレプレ大会 (テストマッチ)、平成 31 年(2019)年 7 月プレ大会、平成 32 年(2020)年 7 月に東京オリンピック・パラリンピックのセーリングの会場となるからである。また、多摩大学グローバルスタディーズ学部(SGS)は藤沢市の湘南台駅の最寄りにある。平成 27(2015)年 11 月、多摩大学と藤沢市、公益社団法人藤沢市観光協会の 3 者による観光連携協定が結ばれ、すでに様々な分野で協力をしている。同協定は、平成 32 年(2020)年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、セーリング競技の会場に選ばれた藤沢市の観光発展のため、3 者間の連携協力関係を強化し観光振興という視点から、湘南藤沢地域のインバウンド観光を推し進めることを目的としている。

平成 30(2018)年からの 3 年間で、湘南藤沢には、著しく外国人観光客の増加が見込まれる。しかし、一方でオリンピックイヤーの 2 週間は混雑を避けるため、訪問客は事前に見込んだほど実際は来なかったり、オリンピック後は訪問客が減少したりという側面もある。平成 24(2012)年、ロンドンオリンピック・パラリンピックにおけるセーリング競技はポर्टランドとウェイマスで実施され、10 種目に、380 人が出場した。ロンドンオリンピック

は7月終わりから8月初めに行われた。平成23年(2011)年の10月と、平成24(2012)年の10月のウェイマスとポートランドへの訪問者数を比較すると75,000人の減少だった。また、オリンピックイヤーは訪問者の伸びは少なかった。オリンピック会場になったことで、公共施設やトイレが改良され、アクセスや交通面も同様に改善された。しかし、ウェイマスとポートランドへの呼び込みは失敗に終わったというイメージが強い。たくさんのお金を費やしたのにかわらず、ロンドンから外の町へ観光客を呼び込めなかった。つまり、オリンピックの爆発力をどう持続させていくかが鍵となる。

私たちはオリンピック後に焦点を置き、オリンピック後の観光客の減少をどう止めるか、そのために、持続可能なストーリーをどう創り出すか。湘南藤沢にある資源をどう生かすか。昭和39(1964)年と平成32(2020)年の2度のオリンピック運営をどう生かすかということ考えた。

図1が研究概要であり、フィールドワークや文献研究から、湘南藤沢の解決すべき課題を4つに大きく分けた。1つ目は日帰り観光地という位置付け、宿泊施設不足、2つ目に交通渋滞、観光客の飽和状態、3つ目、ブランド力不足、最後に4つ目は、鎌倉に来ている欧米人観光客を取り込みたい。これらの課題を解決するための方策として、湘南藤沢の強みを活かすことを考えた。平成30(2018)年ワールドカップから、3年連続の世界的大会の開催をはじめ産業、観光、歴史、大学、市民の潜在力も活用したい。主なターゲットは欧米富裕層とし、サブターゲットは欧米志向のアジア富裕層とする。欧米富裕層のニーズは自然、景勝地観光、日本の歴史・伝統、文化体験である。アジア富裕層、特に中華圏のトレンドもモノからコトへと変わりつつある。

第1、2章では、湘南藤沢の現状と課題、第3章では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技開催地としての意義とスポーツツーリズムの可能性、そして第4章、5章で具体的な提案、解決策を議論していきたい。

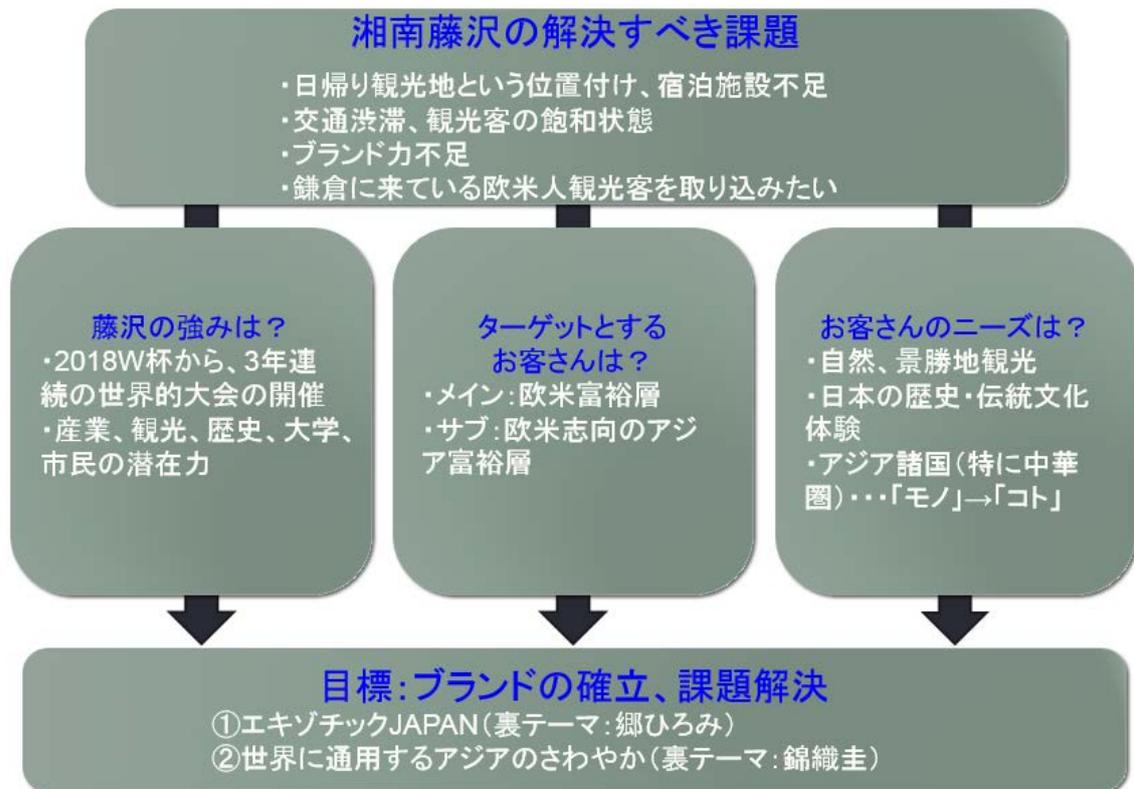


図 1 : 研究概要
(筆者作成)

第1章 藤沢湘南の概況

第1節 藤沢の歴史

藤沢市は神奈川県南部中央にあり、相模湾に接する市である。湘南を代表する市の一つであり、隣接している市や町は横浜市、鎌倉市、綾瀬市、茅ヶ崎市、海老名市、大和市、寒川町の7市町である。藤沢市のホームページによると藤沢市の人口は42万7253人(平成28(2016)年)である。藤沢市は神奈川県で政令指定都市となっている横浜市、川崎市、相模原市に並ぶ4番目に人口が多い市である。藤沢南部には江の島や鎌倉などの観光地や街の中心地があり、北部には住宅街や学生の街として多くの大学のキャンパスが存在する。辻堂地区には湘南地区最大級のショッピングモールである湘南テラスモールがあり、湘南地区に住む人たちの暮らしを支えている。また、日本を代表する海水浴場である片瀬西浜海水浴場、片瀬東浜海水浴場があり、夏には多くの海水浴客が訪れる。



図2：神奈川県における藤沢市の位置

古来江の島は宗教的な修行の場として特色づけられていた。奈良時代には役小角、平安時代には空海、円仁が、鎌倉時代には良信、一遍、江戸時代には木喰が参籠して修行に励んだ。江戸時代の藤沢には東海道の6番目の宿場町である藤沢宿があり、発展してきた。藤沢宿は江の島へ行く道の出発地であり、江の島に参拝しに行く人で賑わっていた。江戸時代の五街道の宿駅と街道沿いの様子が書かれている『東海道宿村大概帳』では、藤沢宿の名物を「大山詣、江ノ島弁財天詣」と記しているとおり、江戸時代の藤沢宿は多くの道が集まる場所であった。街道の中心である東海道を西へ、四ツ谷から北東に分かれる大山

道から大山阿夫利神社・大山不動尊へ、南へ下る江の島道からは江島神社へ、遊行寺前で東へ向かう鎌倉道、北へ向かう八王子道、北西に向かう厚木道などがあり、流通の中心地となっていた。藤沢宿は、現在の藤沢市西富にある遊行寺の近くであることが分かっている。明治時代になって宿駅制度が廃止された後も賑わいを保ち、周辺の農村地帯から麦・米等の農産物を買取る一方、農産に必要な肥料等の販売を行う「米穀肥料商」が繁盛し、資本を形成した。

藤沢市は湘南地域の一つの市であるが、湘南の呼称が付けられたのは江戸時代からである。藤沢市教育委員会の『湘南の誕生』(2005)によると湘南の名前がつけられた由来は諸説あるが、有力な説は江戸時代初期である寛文4(1664)年、小田原の崇雪が西行法師の詠んだ歌《心なき身にもあはれは知られけり鴨立沢の秋の夕暮》に因み、昔の沢らしい面影を残す現在の鴨立庵の地を選び、この地を「鴨立沢」を名づけ、標石を建てたというものである。標石の裏には「著盡湘南清絶地」と刻まれた。崇雪にとって大磯の「鴨立沢」付近の景色は中国湘江の南方一帯の湘南の美しい景色に似ていることから「著盡湘南清絶地」と名づけたと言われている。また、湘水という全長817キロメートルの川の湘をとったものであり、さらに相模の国の相と、その南であるという意味で湘南となったものと思われるという説もある。さらに、「相模の国の南部地方」の意味の相南にかけているという説もあり、湘南の由来には多くの説が存在する。大磯には「湘南発祥の地」の碑がある。そのため、湘南という言葉が生まれた地は大磯だと言うことがわかる。

湘南地域は明治時代には海水浴場として海が開かれた。そのため、江の島に来る目的としては江の島神社への参拝から海水浴に移行し、都心から近いリゾート地のような場所に变化した。

明治35(1902)年に江之島電気鉄道(後の江ノ島電鉄)が藤澤(後の藤沢駅)から鎌倉まで全線開通した。さらには昭和2(1929)年には小田急電鉄が相模大野から片瀬江ノ島間が開通し、江の島は近隣に住んでいる人達だけではなく、電車を利用する観光客にも海水浴場や観光地として利用されるようになった。

藤沢市のホームページによると関東大震災以後は町南部の観光地化、別荘地化とともに次第に藤沢の街の中心が南の藤沢駅周辺に移行していった。第2次世界大戦以後はベッドタウンとしても発展した。湘南地域は東京に近い位置にあり、海洋性気候のため、気候が穏やかであり、都心からも1時間ほどで行くことができるため、都心で働く人のベッドタウン化が進んだ。湘南地域の海側は都心から近いリゾート地、陸側は多くの住宅街が並ぶベッドタウンの2面性を持つ地域となり、地方からの移住者が増えた。また、湘南地域は学生の街としても発展し、慶應義塾大学の湘南藤沢キャンパスや日本大学の湘南キャンパス、湘南工科大学、多摩大学の湘南キャンパスの4つのキャンパスがあり、藤沢市は学生の街という面もある。そのため、大学のキャンパスの最寄り駅には学生向けの飲食店が多いことも特徴である。

現在、湘南という言葉が世間に広まり、湘南と呼ばれる地域も拡大していった。多くの

観光客でにぎわう「鎌倉」、海水浴でにぎわい、多くのイベントが行われる「逗子」、サザンオールスターズで有名になった「茅ヶ崎」などがある。湘南といえば「お洒落」、「若者」、「海水浴」、「都心に近いリゾート地」などをイメージする人が多い。

また、江の島は中国の昆明市と姉妹都市を結んでいる。姉妹都市を結ぶきっかけとなったのは中国の作曲家のニエ・アル(聶耳)である。ニエ・アルは雲南省昆明生まれであり、中華人民共和国の国歌「義勇軍進行曲」の作曲者として知られている。昭和 10(1935)年 7 月 17 日に神奈川県高座郡藤沢町の湘南海岸(鵠沼海岸)にて友人と遊泳中に行方不明になり、翌日水死が確認された。ニエ・アルの没地の縁で昭和 56(1981)年に藤沢市と昆明市は友好都市提携を結んだ。平成 22(2010)年 2 月 11 日、聶耳記念広場に聶耳の生涯や功績を中国語で刻んだ石碑が完成し、中国大使館員ら関係者を招いて除幕式が行われた。交流事業は継続され、今年、平成 28(2016)年は提携 35 周年であった。



写真 1：ニエ・アル記念碑



写真 2：フィールドワークで撮ったニエ・アル記念広場

第 2 節 湘南市構想

これまでに 3 回湘南市ができる機会があったが、実現には至っていない。最初は昭和 22 (1947) 年、片瀬と藤沢市が合併するときの市の名前を考える際に「湘南市」とする案が挙がっていたが、実現せず、藤沢市となった。2 回目は昭和 31(1956)年 7 月 21 日に藤沢市と茅ヶ崎市と平塚市が合併し、「湘南市」になる構想があったが、2 回目も実現には至らなかった。3 回目は平成 14(2002)年に神奈川県に存在する藤沢市、茅ヶ崎市、平塚市、二宮町、寒川町、中郡大磯町の 3 市 3 町が合併し、「湘南市」ができる構想があった。湘南地域 21 世紀のまちづくりのための湘南研究会が発足し、合併後の湘南市について研究を進めてきた。しかし、平成 15(2003)年に地方統一選挙で湘南市構想を進めていた元平塚市長が落選、元茅ヶ崎市市長も落選した。新しい市長の考え方が異なっており、研究会の研究を進めていく条件も変わった。そのため、湘南市研究会は終わり、3 度目の機会も失敗に終わった。合併することになると神奈川県内で川崎市、横浜市、相模原市に続く 4 つ目の政令指定都市になる予定だった。

現在、神奈川県は川崎市、横浜市、相模原市の 3 市が政令指定都市である。この 3 市の

人口を足すと神奈川県民の3分の2ほどになる。政令指定都市は生活保護や食品衛生などの健康や福祉に関する事務について、県を通さずに直接国に提案することになるため、自治体が独立して活動することができる。道路の整備や交通網の充実化、公共施設の建設などのインフラ整備も国や県を通さずに行うことができる。そのため、スピード感のある決定と実行をすることができる。また、児童福祉や地域に密着した教育ができるなど教育面にもメリットがあるなど、多くの決定権が政令指定都市にはある。そのため、地域の実情に合った街づくりを進めやすいことが特徴として挙げられる。藤沢市は茅ヶ崎市と寒川町と同じ教育委員会ということもあり、地域に適した教育との相性が良い。また、藤沢市の課題であるインフラ整備も現状よりもスムーズに行うことができるため、藤沢市にとって政令指定都市になるメリットは大きい。

第3節 湘南のイメージ

現在では、湘南といえば海やお洒落な店が多いという印象が持たれており、若者のイメージがある。「湘南プロナード 湘南の誕生」によると小説家の石原慎太郎、茅ヶ崎出身の加山雄三、同じく茅ヶ崎出身のサザンオールスターズの桑田佳祐が現在の湘南のイメージを構築したと言われている。最初に湘南のイメージを定着させたのは石原慎太郎の小説を原作とした映画「太陽の季節」(1956)である。俗にいう太陽族映画である。当時、映画を真似た「太陽族」という若者が増えたこともあった。また、最新の若者文化を描いたこれらの映画は「太陽族映画」と呼ばれていた。石原慎太郎原作の昭和31(1956)年に放映された「狂った果実」の舞台となった湘南海岸には、映画の風俗を真似る若者が増えた。太陽族映画は若者の憧れだけではなく、湘南海岸への一般集客を高める一端となった。また、昭和29(1954)年に開館した江ノ島水族館は太陽族映画の影響による湘南海岸の大衆化が追い風となり、入場者数を伸ばした。

次に「湘南＝若者」というイメージを定着させたのは映画「若大将」シリーズである(1961)。若大将の特徴として海のシーンが多くある。主演である加山雄三はマリンスポーツが得意だったこともあるが、頻繁に海のシーンが登場することにより「若大将シリーズ＝海」というイメージが世間に浸透した。「海の若大将」というシリーズ以降、「若大将＝海＝湘南」というイメージが定着していった。しかし、若大将シリーズの中で確実に湘南地域が登場しているのは昭和42(1967)年に登場する江ノ島水族館のみである。世間の若大将シリーズに対するイメージよりも湘南地域の登場は少なかったが、主演の加山雄三が茅ヶ崎出身であったために「若大将シリーズ＝湘南」というイメージが根付いた。湘南は太陽族シリーズの舞台となり、若大将シリーズでは加山雄三を媒介とし、より湘南のイメージを固め、若者の憧れを喚起した。

その後、日本を代表とするロックバンドであるサザンオールスターズが結成され、映画だけでなく歌からも湘南のイメージが形成された。サザンオールスターズの歌の歌詞には湘南の文字が多く使われており、湘南といえばサザンオールスターズを連想する人も多い。

歌詞に出ている場所は鎌倉を舞台にしているものも多く、鎌倉も湘南の一部と考える人が多くなった。また、湘南をイメージさせるアーティストであるキマグレンも逗子出身である。

湘南地域はドラマやアニメのロケ地で使われていることも多く、日本人観光客だけでなく、訪日外国人にも有名なスポットが多くある。漫画『ピンポン』（平成8(1996)年から連載）は片瀬高校という仮想の高校であるが、藤沢市を舞台としている。特にロケ地として有名なのは江ノ電の鎌倉高校前駅付近である。鎌倉高校前駅は『スラムダンク』（平成2年(1990)年から連載）、『海街 Diary』（平成26(2006)年から連載）などで使われている。しかし、鎌倉高校前は藤沢市には近いが、実際には隣の鎌倉市である。

最近ではフジテレビで放送されていた「TERRACE HOUSE BOYS×GIRLS NEXT DOOR」（2012年10月12日放送開始）という番組がある。テラスハウスとは男女6人がお洒落な家にルームシェアをするという番組であり、台本は一切ないため、リアルな生活を覗くことができる番組である。番組ではお洒落な音楽や店が出てくるため、若年層を中心に人気があった。「TERRACE HOUSE BOYS×GIRLS IN THE CITY」とシリーズが変わり、現在は、「TERRACE HOUSE ALOHA STATE」に変わっており、シリーズごとに家や場所、メンバーが違う。テラスハウスの番組で使われている家はハワイにあるが、番組の最初の家は葉山周辺に、放送時間が変わり、家を引っ越した2代目の家は鎌倉高校前の近くにあったと言われている。メンバーの行動範囲が鎌倉や江の島中心に放送されていたため、食事やデートのシーンではお洒落な鎌倉や江の島などの湘南地域の店が多く放送されていた。テラスハウスの影響もあり、湘南＝お洒落というイメージが強くなった。また、年々湘南の定義は拡大傾向にある。近年の世間の湘南のイメージでは逗子や葉山など、以前にイメージされた湘南地域より少し遠い地域までも湘南とくくられていることがある。

第4節 本論の湘南藤沢の定義

観光では広域連携が重要であるため、藤沢市だけに限定して考えることは効果的ではな



図 3：本論の湘南藤沢の定義

い。先ほど述べた湘南市構想が実現していたならば湘南市が一丸となってインバウンド観光の促進を目指していけば良いのだが、湘南市は実現しなかった。そのため、藤沢市と協力関係がある茅ヶ崎市、寒川町と連携することにより、さらなるインバウンド観光を促進していくのが良いと考えた。よって、私たちの論文では藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町の2市1町を湘南藤沢と定義する。その根拠はこの2市1町の教育委員会が同じことや合同してイベントを企画することが多いことがある。また、多摩大学で講義をされているDJハギーさんへの聞き取りによると、この2市1町が藤沢市に住んでいる人たちには、1つの地域と認識されていることがわかった。また、鎌倉市や平塚市、二宮町などの周辺の地域を湘南周辺とこの論文では呼ぶことにする。

第2章 湘南藤沢の課題

第1節 日帰り観光地という位置づけの課題

藤沢市は都心から近い場所に位置し、特に江の島は都市圏から近い日帰りリゾート地として国内では知られている。しかし、都心に近すぎることもあり、宿泊客が観光客数に比べ、少ないという課題がある。

1. 日帰り観光地

日帰り観光とは都心から近く宿泊することなく観光をし、日帰りで帰る観光のことを指す。藤沢市は都心から近いこともあり、日帰り型観光客が多い。藤沢市の観光客数は1,833万5,343人（平成27(2015)年）である。しかし、宿泊客数は53,763人と観光客数全体の約2.8%しかいない。他の観光地を見ても同じ神奈川県で温泉街として人気のある箱根町は、箱根町のサイトによると観光客数1,737万6,000人（平成27(2015)年）である。藤沢市は他の観光地と比べても決して観光客が少ないわけではない。しかし、都心に近いため、訪日外国人を受け入れ、宿泊型観光をしてもらいたいということを考えると都心に近すぎるということがデメリットになってしまっている。

しかし、都心に近いことだけが原因で日帰り型観光地という位置づけになっているのではなく、夜まで楽しむ施設がないことも訪日外国人の日帰り観光地化になってしまっている1つの要因である。観光地として成長していくためには観光客数は大切だが、より観光地を活性化していくためには宿泊客の増加が必須である。湘南藤沢と比べると都心のほうが夜遅くまで飲食店が営業しており、クラブやバーなどの深夜に楽しむことができる場所も多い。そう考えると訪日外国人が都心に行ってしまう傾向は変わらない。江の島本島では夕方には多くの飲食店が閉店してしまい、夕食を食べることも難しいほどである。江の島周辺の駅もエンターテインメント施設は少ない。周辺の駅としては藤沢駅や鎌倉駅がある。しかし、藤沢市には飲食店はある程度あるが、クラブやバーは少ない。夜遅くまで楽しむのはやはり難しく、魅力的な場所もコンテンツもほとんどない。鎌倉市の飲食店は江の島に近い傾向があり、店の閉店時間が早い。由比ガ浜周辺も同じように閉店時間は早く、夜まで遊ぶことはできない。そのため、夜遅くまでいても何も楽しむものがないのである。実際に外国人観光客は湘南藤沢に来ているが宿泊する人は少ない。多くの外国人観光客は都心に戻ってしまい、夜のエンターテインメントを楽しむなどしている。

しかし、都心に近いことには多くのメリットがある。都心に近いことにより、羽田空港や成田空港からアクセスがしやすい点や都心を拠点に観光している人でも気軽に遊びに行くことができる点は大きなメリットである。そのため、都市部に滞在している外国人観光客の小旅行先として選ばれている。代表的な日帰り観光地は湘南藤沢の他に埼玉県の川越、神奈川県の三浦半島、東京都の高尾山などが挙げられる。

2.滞在型観光

滞在型観光とは1箇所に滞在し静養や体験型をはじめとしたレジャー、またはそこを拠点に周辺の観光を楽しむレジャー形態のことを指す。滞在型観光は経済波及効果や地元との交流やリピーター化が期待できるなど多くのメリットが存在する。滞在型観光は他の観光地でも挑戦が行われている。例えば奈良県は富裕層をターゲットとしたプロモーションを行い、滞在型観光地を目指している。

Clair Inbound Libraryによると、奈良県は大仏や歴史的建造物が多くある日本を代表する観光地だが、ほとんどの観光客が日帰り観光客という課題があった。原因は隣県が京都府、大阪府といった日本を代表する都市であるためである。日本全国の宿泊客数ランキングでは1位東京都、京都府、北海道と続き、奈良県は47位と最下位である。多くの観光客は京都、大阪に拠点を置いて観光するため、奈良県に宿泊する観光客は少ない。さらに宿が少ないことも原因だと考えられる。需要がないため、宿が少ないということもあるが、奈良ではビルの建設工事で地中から遺跡が見つかり工事が中断する事例もある。そのため、ホテル建設が進まないという現状もある。宿が少ないことが関係して夜の楽しみである飲食店も少ない。奈良の飲食店件数は全国39位、居酒屋に関しては43位と最下位に近い数字である。

奈良県は通過型観光地から滞在型観光地を目指すために、富裕層をターゲットに本物の奈良の価値を提供しようと考えた。宿問題は町屋を改装し、宿泊できるようにした。また、奈良県が富裕層のことについて調べてみたところ、富裕層が好むのは日本的であり、プライベートな空間があることだと分かった。それをふまえて平成27(2015)年3月に京都で開催されたILTM JAPANに出店するなど、まだ注目されていない奈良の魅力について世界に発信している。奈良県のように滞在型観光に向けてターゲットを調べ、観光資源を提供することが大切になってくる。

第2節 交通渋滞、観光客の飽和状態という課題

第1項 湘南藤沢の交通問題

1.電車交通

現在、藤沢市には東海道本線（東京上野ライン）、湘南新宿ライン、江ノ島電鉄、小田急江ノ島線、湘南モノレール、相鉄いづみ野線、横浜市営地下鉄（ブルーライン）の7路線が通っている。湘南藤沢の代表的な観光地である江の島には江ノ島電鉄、湘南モノレール、小田急江ノ島線の3路線が通っている。鉄道面に関しては比較的恵まれており、都内からは新宿、近隣の代表的な駅では藤沢、鎌倉、大船からアクセスしやすい環境になっている。新宿からは1時間ほどで来ることができ、都心からアクセスがしやすいため、日帰り観光地としてとても人気がある。また、鎌倉駅や藤沢駅まで行くと渋谷（湘南新宿ライン）や東京（鎌倉では横須賀線、藤沢では東海道線）などの都心にも乗り換えなしで行くことができる。羽田空港までの高速バスもあるため、空港からのアクセスもいい。夏には多くの

海水浴客が江の島に遊びに来る。また、近くには鎌倉があり、アクセスもしやすいため、1日に江の島、鎌倉どちらも楽しむことができる。

次の図4は湘南藤沢周辺を代表する藤沢駅、江の島・片瀬江ノ島駅、鎌倉駅の3つの駅から都心や主なターミナル駅に乗り換えなしで行くことができる駅を比較したものである。

| 駅名 | 渋谷 | 新宿 | 池袋 | 上野 | 東京 | 品川 | 成田 空港 | 横浜 | 大船 | 鎌倉 | 藤沢 | 茅ヶ 崎 | 平塚 |
|---------------|----|----|----|----|----|----|----------|----|----|----|----|---------|----|
| 鎌倉 | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | × | × |
| 藤沢 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ |
| 江の島・ 片瀬江ノ島 | × | ○ | × | × | × | × | × | × | ○ | ○ | × | × | × |

図4：湘南の電車のアクセス

(乗り換えなしで行ける駅を○、乗り換えが必要な駅は×と表示)

この図から1番アクセスが便利な駅は鎌倉駅であることがわかる。しかし、藤沢駅のほうが湘南周辺地域の中央に位置するため、都心だけでなく、湘南藤沢周辺にアクセスがしやすいという特徴がある。そのため、江の島を湘南藤沢観光の中心の場所とする。

また、湘南藤沢周辺を走る江ノ島電鉄や小田急電鉄、湘南モノレール、JRのフリーパスが販売されている。フリーパスは江ノ島電鉄だけだが、鎌倉から藤沢の周辺がすべて乗り放題のパスも存在する。さらに、江の島展望灯台や江の島岩屋などの江の島にある施設の入場券付のフリーパスも存在し、観光客のニーズに合わせた選択が可能になっている。しかし、訪日観光客がこれらの多種多様なフリーパスを認知しているかは疑問がある。それは我々日本人でも知るきっかけがあまりなく、インターネットで調べてみてもそのような

情報はサイト上にあまり載っていなかった。そのため、もっと訪日外国人に向けた観光サイトを作る必要がある。外国人に寄り添ったサイトがあると江ノ島電鉄の途中駅などでも観光客が訪れる可能性があると思われる。また、多言語対応できているサイトも少なかった。多言語対応のサイトは、オリンピックが開催されることにより訪日外国人が増加することが予想されるため、必須だと言えるだろう。

2.車交通

1つ目は交通渋滞である。この問題は藤沢市だけでなく、湘南全体に言えることである。江の島周辺の大通りは海に面しており、江の島から鎌倉に向かう道は1車線ずつしかなく、車の交通量が飽和状態となっている。大通りを回避する道もあるが、地元の人しか知らず、観光客を中心とした車が常に渋滞している。高速道路は藤沢に新湘南バイパスのインターチェンジがある。または横浜新道で戸塚インターチェンジまで行き、一般道を通って藤沢に行くルートがあるが、横浜新道を使う場合は国道1号線の渋滞を避けることがほぼできないことも問題になっている。また、江の島の休日の駐車場はほぼ満車になっており、夏はどこにも止めることができないほど車で駐車場が一杯になっている。さらに、駐車場利用サービスとしてセグウェイ無料体験ができるなど駐車場の利用価値を高める動きが行われている。

ニッポンレンタカーやオリックスレンタカーは鎌倉・湘南ドライブコースを設定し、レンタカーを利用した鎌倉、湘南観光を提案しており、現地で車を調達することも観光を楽しむ1つのコンテンツになっている。また、江の島本島と片瀬をつなぐ江の島大橋も休日を中心に渋滞しているため、藤沢市は車線増加を検討しているが、地域住民の反対や車線増加に伴う家の立ち退きに反対する人が多く、中々進んでいないのが現状である。

3.自転車、歩行者の交通

自転車は江の島から鎌倉へ行く道にはあまり適しておらず、渋滞している国道134号線の車の脇を通らなくてはいけない。また、歩道も道幅が狭く、フィールドワークの際に江の島から鎌倉高校前まで徒歩で行ったが2人が並んで歩いてしまうと他の人が歩くことができないほど狭かった。しかし、反対方向の江の島から茅ヶ崎まではサイクリングロードがあり、自転車乗りが多く走っている。また、歩道も道幅があり、神奈川県立湘南海浜公園に向かう地域住民の海水浴客やサーファーを多く見かけた。

4.船・フェリーの交通

現在は船やフェリーの定期的な運航は行っていないため、かつて存在した航路について紹介する。以前、大島航路というものがあった。大島航路については第4章の2節で詳しく述べるが大島は東京の南の島であり、江の島から行くと1時間ほどで行くことができる。そのため、江の島から大島へ移動し、夜に江の島へ戻ってくるというプランが考えられる。

この航路があることにより江の島への宿泊客の増加、大島の宿泊客の増加を望むことができる。また、大島の住民が江の島に観光しに来る可能性も多くあるため、訪日観光客だけでなく、地域間観光が生まれることも想定できる。

第2項 トイレ問題

どこの観光地にも同じことが言えるが、江の島にはトイレが少ないことが問題になっている。公共のトイレがあったとしても神奈川県立湘南海岸公園にある程度である。フィールドワークで訪れた神奈川県立湘南海岸公園のトイレは、海水浴やマリンスポーツをした人たちが利用していた。そのため、砂がトイレ内に紛れており、汚い印象があった。また、駅内にもトイレはあるが、あまり清潔ではなかった。また、江の島周辺にはコンビニが少なく、店も個人商店が多い。そのため、トイレが借りづらいという心理が生まれてしまい、トイレ難民が生まれる。さらに、トイレが使えたとしても昔のままであるため和式トイレのことが多く、小さい子供やお年寄りには使うことが厳しい。和式トイレは綺麗ではない印象を持った人も少なくなく、街中のショッピングセンターのトイレでも和式のトイレだけ空いていることも多くある。また、おむつを替える場所も少ない。大型商業施設ではトイレの近くにおむつを替えるスペースがあるにはあるが、江の島は個人商店が多いこともあり、そのようなスペースはない。そのため、赤ちゃん連れの観光客は行きづらい場所になってしまっている。

第3項 江の島の飽和状態

湘南藤沢の観光客数は1833万5343人である（藤沢市と茅ヶ崎市、寒川町の2市1町を足した観光客数）。そのうちほとんどの観光客が江の島に観光しに来ていると想定される。江の島は0.38㎢程度の島であり、これ以上江の島に人が増えると観光客が溢れてしまい、押し合ってしまうなど観光客の安全面の問題が浮上する。それほど江の島は観光客が飽和状態になっている。今現在も、休日の江の島の表参道は人であふれかえり、まともに歩くことが難しいほどである。



写真 3：フィールドワークを行ったときの江の島の表参道

2016年5月21日（土）撮影

第3節 ブランド力不足という課題

第1項 知名度の低さ

湘南藤沢は同じ神奈川県にある代表的な観光地である鎌倉市、横浜市、箱根町などに比べ知名度が低い。観光客数は多いが、鎌倉市、横浜市、箱根町など他の神奈川県内の観光地に比べると少なく、楽しめる観光名所は少ない。さらに江の島は鎌倉市にあると思ってい

る人も少なくない。江の島は藤沢の南端に存在し、鎌倉市も近い。江の島が鎌倉市という認識があるということからは、藤沢市の知名度の低さがわかる。また、湘南藤沢というと江の島が観光地として雑誌などのメディアにほとんど取り上げられているため、「藤沢」という地名よりも「江の島」という地名が独り歩きしてしまっている現状がある。

第2項 鎌倉と比較した際のブランド力の貧しさ

鎌倉に比べ、ブランド力で劣っている。鎌倉は鶴岡八幡宮や建長寺など歴史的建造物が多く揃い、「東の古都の街」、「武家の古都」というイメージが持たれている。江の島は江の島神社や新江ノ島水族館などがあり、観光地としては魅力があるように感じる。しかし、鎌倉ほど洗練されたイメージはなく、鎌倉のように観光地としてのブランド力があるわけでもない。藤沢市観光復興計画においても、「藤沢らしさ」という言葉が繰り返されるが、その内実は不明確である。鎌倉は多くの観光土産や鎌倉らしいレトロでお洒落なカフェなどが多くある。また、京都のように景観を大切にしており、コンビニエンスストアの看板も色が抑えられている。



写真 4：ファミリーマート鎌倉山ノ内店



写真 5 : 従来のファミリーマートの看板

<http://binetsu.net/wp-content/uploads/2015/03/a97d4a4a24a428f9a52b19df18ef84d8.jpg>

写真 4 は鎌倉山ノ内店のファミリーマートの看板の写真だが、普段の緑を基調とした看板より色が落ち着いていることがわかる。これは景観を守るために行われており、京都市を中心に歴史的な建造物が多くある街では同じようなことが行われている。このように街の景観に合わせて色彩を抑えることを行なっている地区を景観地区と呼ぶ。国土交通省のホームページによると、景観地区は形態意匠の制限の他、建築物の最高限度、敷地面積の最低限などについて市町村が都市計画として決定する。景観地区を設けることにより、街の景観が整えられ、魅力的な街の景観が壊されることを防ぐことができる。鎌倉市のホームページによると鎌倉市は平成 20(2008)年 3 月 1 日に鎌倉駅、北鎌倉駅を中心とした市街地を中心に景観地区を指定し、建築物の高さや屋根、外壁の制限を定めた。目的としては鎌倉周辺の歴史的風土と自然環境を融和した街並みを誘導し、世界に誇る「武家の古都・鎌倉」として街の景観を図ることである。建物の色彩は山並みや歴史的な建造物などと調和し、対比感が強い色彩は避けるように決められている。また、色相の明度や彩度も制限が決められている。

江の島はしらす関係の店が多く、「しらすまん」、「シラスせんべい」などシラスを前面に押し出した商品を多く見かける。さらにはソフトクリームにシラスを合わせた「シラスソフトクリーム」というものもあつたくらいである。しらすしか魅力がないと思わせるほど、しらす関連の商品、食べ物が多い。鎌倉と同じように江の島も景観地区に入っている。江の島は島内を西町地区、東町地区、山地区、臨海地区の 4 つの地区に分け、地区ごとに制約を設定し、景観を守っている。しかし、江の島本島に入っても引き込まれるようなものや統一感は鎌倉と比べて少なく感じる。また、江の島には表参道があり、青銅で作られた

大きな鳥居があり、その通りには様々な店が並ぶ。こうした景色には日本らしさがある。しかし、訪日外国人が思い浮かべる日本とは鎌倉の長谷寺や建長寺、鶴岡八幡宮などの歴史的建造物であり、「古き良き日本」、「伝統的な日本」といったようなものである。そのため、江の島にも日本らしさが存在はするが、訪日外国人が想う日本のイメージとは少し違うのではないか。また、場所も都心から近いため、観光しに来やすいが、鎌倉には成田空港からの直行高速バスと特急電車（成田エクスプレス）もあるため、交通面も鎌倉には劣ってしまう。

第4節 湘南藤沢の観光資源

湘南藤沢には観光資源が多くあり、魅力があり、潜在力がある。文献研究やフィールドワークから導き出した、私たちの考える湘南藤沢の魅力とは以下の5つである。

1. 学生

現在、藤沢市には多摩大学、日本大学、慶応義塾大学、湘南工科大学の4大学がある。そのため、大学周辺の施設や飲食店には大学生に向けた店が多い。大学のキャンパスは湘南台には多摩大学、慶応義塾大学日本大学があり、辻堂には湘南工科大学がある。湘南台には学生ラーメンなど学生をターゲットとしている店が多く、湘南台駅などの駅付近は多くの大学生で賑わっている。

2. 恵まれた海の資源

湘南藤沢に面している相模湾は資源に恵まれた海である。相模湾には1500種類もの魚が生息し、これは魚の全種類の3分の1ほどの割合を占める。相模湾は海が深く、海水の層が主に2つある。黒潮系の海水が多様な魚を相模湾に運ぶ。2つ目の親潮系海流は豊富な栄養をもたらす。また、箱根や丹沢の森からの豊富な栄養素が河川を經由し、相模湾に流れ込むことも相模湾に栄養をもたらしている。江の島はしらすがとても有名である。しらすは茨城沿岸、相模湾の各地域で水揚げがされているが、藤沢市沿岸のものは上物だとされている。

江の島にある新江ノ島水族館は相模湾の生態を忠実に再現しており、展示されている。「カンブリア宮殿」（平成28(2016)年5月5日放映）によると新江ノ島水族館は1954年に日活の堀久作が創業した。来場者は172万人で全国の水族館の中で入場者数第4位である。リピーターが多いことも特徴の一つである。

3. 豊富な農業や畜産

湘南藤沢には海の資源だけではなく、農業や畜産の面での資源も豊富である。農業は湘南野菜、畜産はみやじ豚が代表的である。みやじ豚は平成18(2006)年9月1日に株式会社みやじ豚としてスタートした。平成20(2008)年農林水産大臣賞も

受賞している。株式会社みやじ豚は父と息子2人で行なっている養豚場である。みやじ豚は生産から顧客まで一貫してプロデュースしており、農業の活性化と同時に実現するモデルを湘南に作ることを目標としている。また、農家の子が胸を張って農家の子だと答えられるようにでき、将来継ぎたいと思えるような魅力的な産業にすることを目指している。取り扱いは限られており、湘南地域を中心に神奈川県や東京都、関西地区の一部の店でしか取り扱っていない。みやじ豚は甘く、クリーミーな味がすることが特徴である。

また、湘南野菜は平成6(1994)年にブランド化され、生産者は250人いると言われている。湘南野菜の特徴は、相模川の豊かな水と水はけの良い砂質で露地栽培されているため、野菜は水分をしっかりと含んでいることである。また、鮮度維持のためにデリケートな葉物などには布を被せ、瑞々しさをキープするなど鮮度を保つために最新の注意を払っている。湘南地域は都心から近い。そのため、食料の輸送距離が小さいこともあり、湘南野菜は鮮度が良い状態で都心に運ぶことができる。さらに、生産者の顔が見ることができるとも特徴の1つであり、消費者も安心して食べることができると地元を中心に食べられている。

しかし、あまり認知はされておらず、隣の鎌倉市のブランドである鎌倉野菜の方が有名である。そのため、湘南野菜というブランドをどのように発信していくのが湘南野菜をもっと多くの人に食べてもらうためには重要である。

このように湘南藤沢は食育を中心としたフードツーリズムでも観光客を呼び込むことができる可能性を秘めている。

4. 平成32(2020)年東京オリンピック・パラリンピックの影響

平成32(2020)年に東京オリンピック・パラリンピックのセーリング競技が開催されることが決定し、セーリング会場である江の島に注目が集まっている。オリンピックが開催されることになると訪日観光客が増加するという見込みがある。現在の観光プランでは発見されていなかった日本の魅力がオリンピック・パラリンピックにより、発見される可能性がある。さらに、今まで日本に興味がなかった外国人もオリンピック・パラリンピックの開催により、日本に注目するかもしれない。江の島は日本のマリンスポーツの聖地としていかに魅力を発信できるかが今後の観光客数増加において重要である。よって、オリンピック・パラリンピック後もそのレガシーを引き継ぐことができるかが今後の江の島の課題となる。

5. フィルムコミッション

湘南藤沢には映画やアニメの舞台として使われている場所が多くある。隣の鎌倉市にある鎌倉高校前の踏切は漫画『スラムダンク』に登場するため、多くの訪日外国人が写真を撮りに来ている。



写真 6：鎌倉高校前踏切

2016年5月21日（土）撮影

湘南藤沢には「湘南藤沢フィルムコミッション」という組織がある。平成14(2002)年の9月に設立された団体である。活動内容は藤沢市内における映画やTVドラマ等のロケーション撮影の支援や誘致を行なっている。この活動は公益社会法人藤沢観光協会の事業の1つとして活動している。フィルムコミッションは地域活性化につながり、観光客が増えることも期待できる（詳しくは、補足資料を参照）。

第5節 湘南藤沢のインバウンド観光の現状

藤沢市観光協会によると訪日外国人の観光客数は推計値であるが36万6512人(平成25年(2013)年)である。この観光客数は辻堂海浜公園、スケートパーク、島内の駐車場利用者以外を覗く数字であるが、多くの人々が来ていることがわかる。

平成25(2013)年の調査では、台湾から来た訪日外国人は44%を占めており、台湾人が多く藤沢市を訪れていることがわかる。

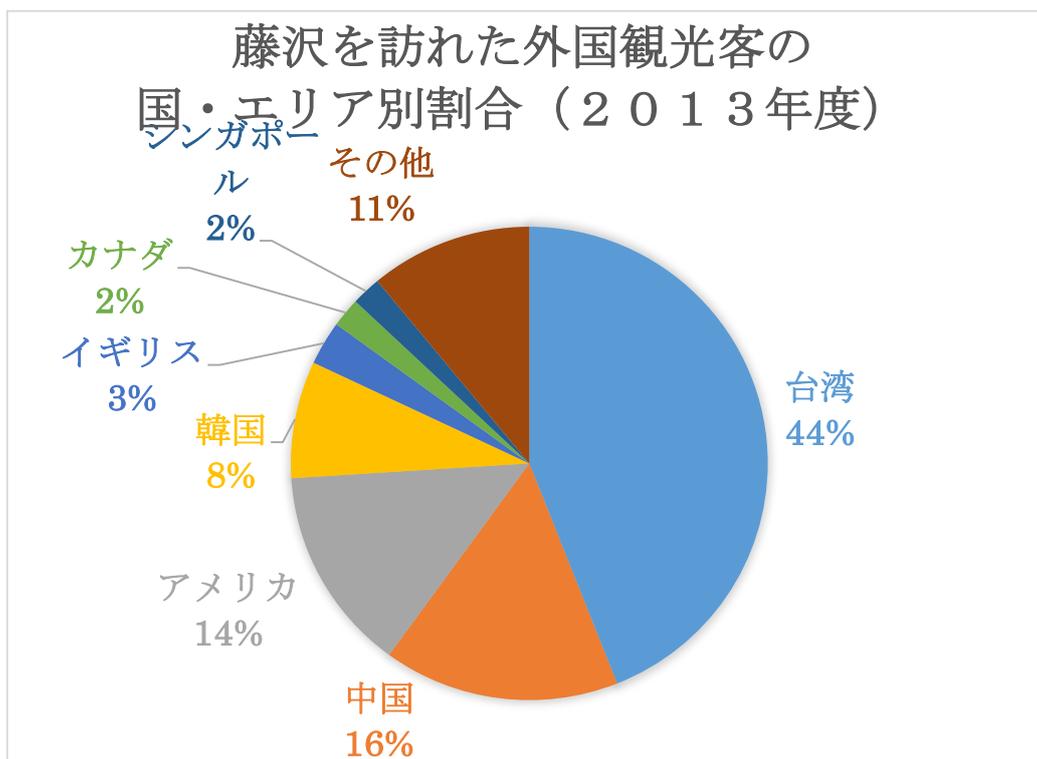


図 5：藤沢を訪れた外国人観光客の国・エリア別割合

一方、隣の鎌倉市は藤沢市とは違う観光客層であることが次のグラフから分かる。

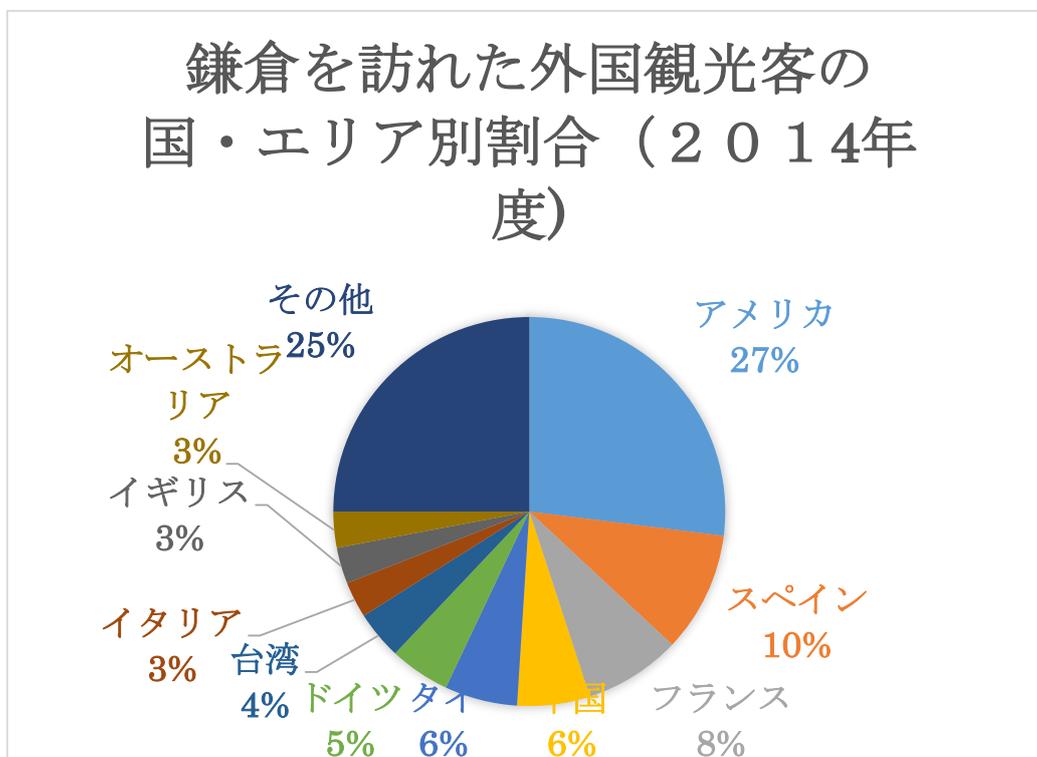


図 6：鎌倉を訪れた外国人観光客の国・エリア別割合

このように藤沢市と鎌倉市は訪れている訪日外国人が違うことがわかる。藤沢市は主にアジア圏の観光客が多いのに対し、鎌倉市は主にアメリカ圏、ヨーロッパ圏の観光客が多い。そのため、鎌倉市に訪れている外国人にどのようにして藤沢市に来てもらうかが重要である。鎌倉市には「古き良き日本」、「伝統的な日本」を求めて訪れている人が多い。そのため、江の島の持っている「古き良き日本」、「伝統的な日本」をアピールすることが必要である。また、先ほど述べた江ノ電のフリーパスなどが売られていることがより認知されるようになると鎌倉だけでなく、江の島にも足を運ぶ人が増えるのではないだろうか。

さらに、藤沢市の訪問回数をみると、初めての訪日外国人が約7割を占め、2回目が1割強である。だが、3回目が5.5%、5回以上訪問している訪日外国人が5%を占めており、藤沢市はリピーターが2割を超えている。また、半数以上の訪日外国人がまた再訪したいと希望している。「やや思う」も合わせると約95%の方が再来訪意向を示している。再訪したい理由としては美しい海やビーチ、江の島といった自然環境や日本の伝統・歴史・神社仏閣等の文化資源、和食・海産物等の食文化、東京からのアクセスの良さ、そして、雰囲気の良い清潔感、藤沢市の人々のホスピタリティ等が評価されており、今後もリピーターの増加が期待される。しかし、藤沢市に対し、観光案内の標識の充実、街や駅・飲食店等での外国語対応、外国人に対する情報提供手段の充実を求める声も多い。

第3章 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技開催地としての意義

第1節 スポーツツーリズムの可能性

スポーツツーリズム推進連絡会議(2016)によると、スポーツツーリズムは、観光立国推進基本法に基づく観光立国推進基本計画^②の観光立国の実現に関する各目標について、次のような効果を期待できると予想している(図7参照)。主に、4つのポイントが挙げられる。この4つは本論の問題提起に深く関わっていると考える。また、図7の内容を踏まえて設定された基本的推進方針は、図8のとおりである。

1つ目の目標は、現存の観光プランでは明らかにできていなかった日本の魅力や奥深さをスポーツという新たな切り口で紹介することだ。日本でスポーツに触れるというストーリーを創り、今までになかった日本の観光ブランドの発掘や訪日モチベーションの増加に結びつけることが期待できる。

2つ目の狙いは、国際イベントの開催件数増加である。オリンピック開催やワールドカップ開催すなわち、ビッグイベントの招致・開催を通して、1競技の国際大会や地方公共団体等が主催する中小規模のスポーツ交流イベント、国際オリンピック委員会や国際競技団体が主催するスポーツ関連の国際会議開催を推進することにより、国際イベントの開催件数増加が期待できる。平成32(2020)年東京オリンピック・パラリンピック開催を、どう湘南藤沢に反映させられるか。マリンスポーツ(特にセーリング)のイベントの開催件数増加がターゲットだ。

3つ目の目的は、国内観光旅行の宿泊数の増加である。一般的には、プロ野球やJリーグなどの「観る」スポーツへの強化、地域の魅力を楽しむためのトレッキング、サイクリング、マリンスポーツのイベントへの参加など、「する」スポーツを交えて新たな旅行プランを立てて観光客を増やす。藤沢市(2015)によると、湘南藤沢の平成25(2013)年の日帰り観光客数は、1,509万4,000人で全体の観光客数の97.2%を占めている。湘南藤沢の日帰り観光客の割合は神奈川県全体と比べても高く、過去10年間の平均値は97.3%であり宿泊数が極めて少ない傾向にある。平成25(2013)年の宿泊客数は43万であり、過去10年間でも平均2.7%である。よって、スポーツツーリズムを通じて宿泊客数を伸ばすことを期待している。

最後に4つ目として国内観光旅行の消費額の増加だ。これは、3つ目の目標と連動しており宿泊観光客数が増えれば消費額も必然と伸びるだろう。藤沢市は、平成22(2010)年度から平成25(2013)年度途中までに江の島を訪問する観光客全般2,826人に聞き取りアンケートを実施した。1日あたりの平均合計金額は、日帰り観光客で4,755円であるのに対し宿泊観光客は、7,518円であった。日帰り観光客の観光消費額と比較して宿泊観光客の観光消費額は約1.5倍となっていた(藤沢市、2015)。スポーツツーリズムによって宿泊観光客数を増やせば、観光消費額の増加も期待できると予測できる。

観光立国日本の実現

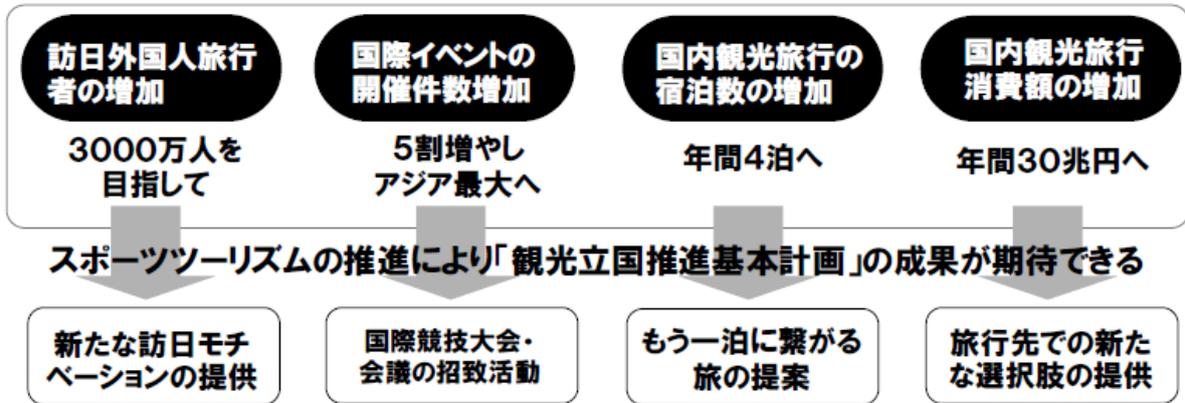


図 7：観光立国推進基本法に基づく観光立国推進基本計画の観光立国の実現に関する各目標



図 8：スポーツツーリズムによって期待できる効果
(スポーツツーリズム推進連絡会議、2011)

第2節 オリンピックとスポーツツーリズム

世界最大のスポーツの祭典であるオリンピックは、200以上の国と地域から選手が参加する。自国の選手の活躍を応援するために、多くのスポーツツーリストが開催場所、地域、会場に集まる。一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構（2015）の調べでは、昭和39(1964)年に東京で開催された東京オリンピックでは、期間中に日本を訪れた外国人旅行者が約50,000人（うち、選手を含む大会関係者約9,000人、一般観光客約41,000人）であった。オリンピックイヤー（昭和39(1964)年）は、日本にとって初のオリンピック開催ということで、東海道新幹線、高速道路の建設、宿泊施設の整備など、外国人を受け入れるための基本的なインフラ整備も進められた。その後、昭和47(1972)年の冬季に行われた札幌オリンピックは、国内外から約66万人の観客を集め、平成10(1998)年の長野オリンピックでは、国内外から約135万人超の集客に成功した。

最近のロンドンオリンピック・パラリンピックの例でも、平成20(2008)年に発生したリーマン・ショック以降、外国人訪問者数の割合は減少傾向にあったが、平成24(2012)年は3108万人、五輪後の平成25(2013)年は3,281万人と増加傾向にあった。しかし、ロンドン五輪開催年の平成24(2012)年をより細かく見ていくと、訪英外国人旅行者数は前年同期比で4.2%減となった。これは、欧州ツアーオペレーター協会によると、オリンピック・パラリンピックに対して無関心な観光客の一部が、ロンドンでの交通・宿泊の混雑や宿泊代の価格沸騰を嫌い、旅行を回避したためだ（一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構、2015）。

ロンドンオリンピック・パラリンピックでは、観光分野の行政機関である、「文化・メディアスポーツ省」(Department of Culture, Media and Sport, DCMS)の下部組織である「英国政府観光庁」(Visit Britain, VB)が中心となった。英国内の4地域（イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド）の観光局およびロンドン市観光局と連携し、「政府観光戦略」(Government Tourism Policy)を作成した。ロンドンオリンピック・パラリンピックの特質は、オリンピックの効果をロンドン市内だけではなく、地方への波及効果を狙い、関連イベントを開催したことにあるとされている。代表的な例としては、「カルチュラル・オリンピアド」という試みだ。DCMSとロンドン市などで構成されるオリンピック・文化プログラム委員会は、北京オリンピック・パラリンピック後の平成20(2008)年からロンドンオリンピック・パラリンピック開催の平成24(2012)年までの4年にわたり、「カルチュラル・オリンピアド^③」という大規模な文化プログラムとして、イギリス国内の1000以上の地域において、約18万件のイベントが企てられた。これには、合計で約4300万人の人々が参加した。2020年東京オリンピック・パラリンピックでもこのように、東京から湘南藤沢のような地域への波及効果が狙える。

第3節 セーリングの競技人口

日本セーリング連盟（JSAF）は国際セーリング連盟に加盟し、日本のヨットレースやセ

ーリングスポーツを代表する機関として、世界中の国別セーリング連盟とともに活動している。日本におけるレーシング・ルール・オブ・セーリング（RRS）の運用・管理を行うほか、安全に関する調査や研究、ヨットレースの主催・後援・協力、指導員・審判員や計測員の資格認定、艇の登録、ならびに関連する国内及び国際法律機関との折衝、セーリングスポーツの普及など、セーリングに関するすべての活動を推進する組織である。日本のセーリング競技人口数などの資料がなかったため、日本セーリング連盟に問い合わせた。連盟に加盟しているのは約 1 万人で、世界の競技人口は約 20 万人程度ではないかという返答をいただいた。また、連盟加盟者数や競技人口などの資料は公開していないということであった。つまり、正確な数値は不明ではあるが、日本の競技人口は約 1 万人、世界の競技人口は、約 20 万人と推測できる。

セーリング競技の強豪国は、豪州やアメリカやヨーロッパなどである。今年セーリングワールドカップファイナルが、オーストラリア・メルボルンで開催された。このように豪州では頻繁に大会が開催されている。そのため、地元である豪州選手が強いと言われている。国際セーリング連盟(ISAF)のランキング(図 9)でも豪州やアメリカの選手は上位にいる。また、アジア圏では中国が強豪国である。

FLEET RACING - MEN - 470 - MONDAY 31 OCTOBER 2016

| POS ↑ ↓ | NAME ↑ ↓ | COUNTRY ↑ ↓ | CREW | EVENTS ↑ ↓ | PREVIOUS ↑ ↓ | BEST | POINTS ↑ ↓ |
|---------|--|-------------|--|------------|--------------|------|---------------------|
| 1 | Mathew Belcher | AUS | William Ryan | 6 | 1 | 1 | 984 |
| 2 | Sime Fantela | CRO | Igor Marenic | 6 | 2 | 1 | 949 |
| 3 | Anton Dahlberg | SWE | Fredrik Bergström | 6 | 3 | 1 | 889 |
| 4 | Stuart Mcnay | USA | David Hughes | 6 | 4 | 3 | 869 |
| 5 | Onan Barreiros | ESP | Juan Curbelo Cabrera | 6 | 5 | 3 | 848 |
| 6 | Jordi Xammar Hernandez | ESP | Joan Herp Morell | 6 | 6 | 5 | 848 |
| 7 | Panagiotis Mantis | GRE | Pavlos Kagialis | 6 | 7 | 1 | 795 |
| 8 | Luke Patience | GBR | Elliot Willis Chris Grube | 5 | 8 | 2 | 783 |
| 9 | Ferdinand Gerz | GER | Oliver Szymanski | 6 | 9 | 4 | 765 |
| 10 | Sofian Bouvet | FRA | Jeremie Mion | 6 | 10 | 2 | 765 |
| 11 | Carl-Fredrik Fock | SWE | Marcus Dackhammar | 6 | 13 | 11 | 757 |
| 12 | Matthias Schmid | AUT | Florian Reichstädter | 6 | 11 | 2 | 752 |
| 13 | Lucas Calabrese | ARG | Juan de la Fuente | 6 | 12 | 2 | 748 |
| 14 | Hao Lan | CHN | Chao Wang | 6 | 14 | 14 | 692 |
| 15 | Pavel Sozykin | RUS | Denis Gribanov | 6 | 15 | 11 | 686 |

図 9 : セーリング世界ランキング 男子-470
(World Sailing、2016)

次に、セーリング競技の歴史についてだが、ヨットの発祥はオランダだといわれている。その後、イギリスへ渡り普及した。当初は、主に輸送や連絡などの実用的な用途に使われ、レジャーとして利用したのはイギリスのチャールズ 2 世が最初といわれている。オリンピックでは、明治 29(1896)年アテネ大会から正式種目になった。しかし、この大会は天候が悪く中止され、幻となったため、明治 33 (1900)年パリ大会から競技が実施されている。競技で使用される艇の種類は、現在までに幾度か変更されている。昭和 59(1984)年ロサンゼルス大会から、いわゆるヨットと呼ばれる種別に加え、ウインドサーフィンが採用された。

また、日本のセーリング競技の歴史についてだが、日本がセーリング競技でオリンピックに参加したのは昭和 11(1936)年第 11 回ベルリン大会からである。第二次世界大戦でセーリング競技は中断されたが、昭和 27 (1952)年第 15 回ヘルシンキ大会から復活参加した。当時は一部の人のみのスポーツだったが、昭和 39(1964)年第 18 回東京大会前後から、企業を中心にセーリング活動が行われるようになった。東京オリンピック後、デンマークから寄贈された 6 艇のオープンクラスをきっかけにジュニアクラブが設立され、高校生、大学生の部活動、実業団のクラブ活動も盛んになり、現在に至る。

オリンピックでは、平成 8(1996)年第 26 回アトランタ大会で、女子 470 級の重由美子選手、木下アリーシア選手組が 2 位で初めてメダルを獲得した。男子では、平成 16(2004)年

第 28 回アテネ大会で男子 470 級の関一人選手、轟賢二郎選手組が銅メダルを獲得した。

日本の中で最も歴史の古いヨットレースとされるのが大島レースである。開催当時は日本クルージングクラブ (CCJ) が主体となり、昭和 25(1950)年 7 月に横浜から大島岡田港までのレースが行われている。このレースは正式に行われたものではないため、第 0 回大島レースといわれている。優勝は唯一完走した慶応義塾大学ヨット部の〈ARGONAUT〉(横山晃艇長)であった。翌年の昭和 26(1951)年に第 1 回大島レースが 15 隻参加して行われた。コースは現在と同じ葉山～初島～大島～葉山である。初期の頃の参加艇の半数以上は、アメリカ人を中心とした外国人所有艇で日本人所有艇は、20～25 フィートの JOG と呼ばれるもので、横山晃氏、渡辺修二氏などが設計し、自ら艇長として参加していた。平成 28(2016)年 5 月 28 日、外洋湘南主催、伝統の外洋レース「第 66 回大島レース」が開催された。関東水域で行われる外洋シリーズの第 2 戦でもある大島レースは、葉山沖をスタートし、初島、伊豆大島を回航して葉山へ戻る、約 146 キロメートルの外洋レースである。今年は 15 艇が参加した。競技時間は、約 16 時間という競技時間の長いレースである。

そして今年、福岡で「アメリカズカップ」が開催された。アメリカズカップとは、1851 年にロンドン万博博覧会の記念行事として開催されたヨットレースに参加したアメリカチームが優勝カップを持ち帰ったことから始まるヨットクラブ対抗のレースであり「世界最高峰の国際ヨットレース」といわれている。参加チームは、2 年をかけてアメリカズカップへの挑戦権を得るための予選シリーズ「ルイ・ヴィトン・アメリカズカップ・ワールドシリーズ」を世界各国で戦い、その後行われる「アメリカズカップ・チャレンジャーシリーズ」で挑戦チーム代表が選出される。アメリカズカップ前回大会優勝の防衛チームとの一騎打ちで世界最古と言われる優勝トロフィーを争う。このような世界的に有名なレースが、初めてアジアで開催された。

第 4 節 横乗りスポーツの聖地としての潜在力

本節では、湘南藤沢の横乗りスポーツの潜在力という点にスポットライトを当てるが、初めに「サーフィン」が湘南藤沢に根付いてきた経緯を分析し、観光資源としての潜在力を見出したいと考える。

横乗りスポーツとは、一般的に「サーフィン」「スノーボード」「スケートボード」の 3 つのことを指す。湘南藤沢にはこの内 2 つの横乗りが根付いている。それは、サーフィンとスケートボードである。「スケートボード」は 2020 年に行われる東京オリンピック・パラリンピックの正式種目にも選ばれ、スポーツ界・ファッション界でとても注目されている。今回の「スポーツツーリズム」という提案において、重要なポイントになると考えられる。

第 1 項 サーフィンの潜在力

湘南藤沢には、昭和 13(1938)年頃から「波乗り」と呼ばれる、簡易版サーフィンを楽し

む人々がいた。そこに、昭和 23(1948)年頃にアメリカ駐屯地の兵士によって、「サーフィン」が持ち込まれ、少しずつ地域に根付いたと考えられている。実際にマスメディアに取り上げられたのは、昭和 43(1973)年頃に雑誌『平凡パンチ』によって、茅ヶ崎・辻堂付近の浜辺でサーフィンを楽しむ若者の存在が取り上げられたことが初めだとされている。そこから湘南藤沢にサーフィンをしに来る若者が増えた。それがきっかけで湘南藤沢の文化の 1 つとしてサーフィンは根付き、地元の人に認識されたことでサーフカルチャーが出来上がったと考えられる。夏以外の時期や、もっと手軽に横乗りスポーツを楽しみたいという考えや思いから藤沢では、道路や空き地などでも楽しむことができる「スケートボード」をする人が増え始めた。サーフィンをする場所が存在し、地元にはサーフカルチャーが根付いている点が、湘南藤沢におけるサーフィンによるスポーツツーリズムの潜在力だと考えられる。藤沢近辺には、サーファーでいうところの、湘南エリアと言われるサーフィンポイントが密集している場所がある。大まかに分けると 18 か所近く存在する（図 10 参照）。その中でも藤沢周辺は波が緩やかで、初心者がサーフィンを始めるのに適していることから多くの若者が遊びに来ていた。当時のサーファーやスケーターの服装「ストリートファッション」が口コミや雑誌に取り上げられたことで流行の発信源になったと考えられる。初心者が楽しみやすいスポットである湘南藤沢はサーファーが現在も多く来ているという特徴がある。地域にスポーツが浸透している点や実際にする人達にも、スポットとして認識されている点はスポーツにとって重要であると考えられる。東京オリンピック・パラリンピックで大会の会場となっているセーリングよりも、地域には根付いているのではないかと考えられ、セーリングだけの提案ではなく、横乗りスポーツと一緒にスポーツツーリズムの資源として提案することによって、湘南藤沢の潜在力を活用しつつ新しい分野で地域を活性化することができるのではないかと考える。



図 10：湘南藤沢周辺のサーフィンポイント

第 2 項 スケートボード

サーフィン以外にも、東京オリンピック・パラリンピックで公式種目になることが決まった、スケートボードの潜在力を考える。神奈川県にはスケートボードをするための施設（スケートパーク）が 17 か所存在する。第 1 項で記述したように、サーフィンをする人が、冬や、手軽に横乗りスポーツを楽しむために少しずつ作られて行った背景があり、藤沢を中心に現在もスケートパークの数が増えている。一般的にスケートボードは公道などで行う「ストリート」と呼ばれるスタイルと、施設内で楽しむ「パーク」と呼ばれる 2 種類に大きく分けられる。この 2 つを両方楽しむ人も存在するが、スケートボードをしなない人からすると、他のスポーツに比べて「危険」「不良」などと言われることがある。スケートパークの存在は、地域住民とスケーターの境界線をはっきりと作ってくれるので、多く存在すると「ストリート」で遊ぶ人の減少が期待でき、スケートボードのイメージも「安全」「カッコいい」にイメージチェンジができるのではないかと考えられる。平成 32(2020)年からオリンピックの公式種目に追加され、注目されていくスポーツの 1 つと考えられる。そのコンテンツが地域に根付いている事は、スポーツツーリズムの潜在力があると考えられる。

第 5 節 湘南藤沢ブランドの形成

湘南藤沢のイメージを観光客に持たせるために、ブランドの形成が必要だと考えた。本節では、湘南藤沢の資源を KJ 法によって整理して湘南藤沢ブランドを形成するために考え

たキャッチコピーと2つのイメージを述べる。私たちが考えたキャッチコピーは、“ちょっと休憩しない？海で遊べる宿場町”である。このキャッチコピーは、湘南藤沢には多くの観光資源があり、海もあり、短時間で楽しむことができる場所などの意味がある。このようなキャッチコピーを決めるまでには、様々な案が提案された。湘南藤沢は、江の島が有名なので「海」という言葉。加えて、湘南藤沢には様々な観光資源があり、東海道五十三次の「宿場町」でもある。このような資源の魅力を統合してキャッチコピーの決定に至った。

また、発信するイメージの柱を2つに絞った。まず1つ目のイメージは“エキゾチック JAPAN”である。人物でいうと郷ひろみをイメージしている。湘南藤沢にあるコンテンツとしては、東海道五十三次や芸者、弁財天と世界女性群像噴水池を利用する。



写真 7：郷ひろみ

デイリースポーツ「郷ひろみ『ヤバイ！』サマソニでGO」出典：
<http://www.daily.co.jp/newsflash/gossip/2015/08/16/0008310600.shtml>（参照日：2017年1月12日）

2つ目のイメージは“世界に通用するアジアのさわやか”である。人物でいうと錦織圭をイメージしている。



写真 8：錦織圭

MARBLE 「プロテニスプレイヤー錦織圭さんの試合映像の地上放送はないの??」 出典：
<http://topicks.jp/19032> (参照日：2016年8月18日)

湘南藤沢にあるコンテンツとしては、横のりスポーツやエコなどを利用する。次章は、この2つのイメージとそれによって解決できる湘南藤沢の課題について詳しく述べることにする。

第4章 エキゾチック JAPAN

第1節 歴史観光の資源

第1項 信仰の地としての歴史

ここまで述べてきた通り、平成30(2018)年からの3年間は、国際大会、セーリングワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックなどで競技関係者、ファンなど一定の割合の訪問者数の増加が見込める。しかし、一方でその後、セーリングを軸としたスポーツツーリズムで人をコンスタントに呼べるかは、いささか疑問である。そこで、私たちは今現在、湘南藤沢にある資源をどうにかせるか、持続性の高いツーリズムとは何かを熟慮した。本章では、「エキゾチック JAPAN」というテーマで湘南藤沢をプロモートしていきたい。

「エキゾチック JAPAN」を人物に例えるならば、日本の有名男性歌手、「郷ひろみ」のようなイメージだ。観光には「光」と「影」が、いつもつきものである。東海道の宿場町、信仰の地としての「光」の歴史ばかりがクローズアップされているが、精進落とし、ギャングブル、芸者など「影」も観光の魅力の1つであり、そうした部分も利用して課題解決を進めていきたい。これらのコンテンツと手段としての大島航路の利用、湘南港沖へのクルーズ招致を組み合わせることで課題解決を目指したい。特にこの章では、欧米人観光客の取り込み、宿泊問題の緩和、交通渋滞の緩和の課題にフォーカスしたい（図11参照）。

エキゾチックJAPAN

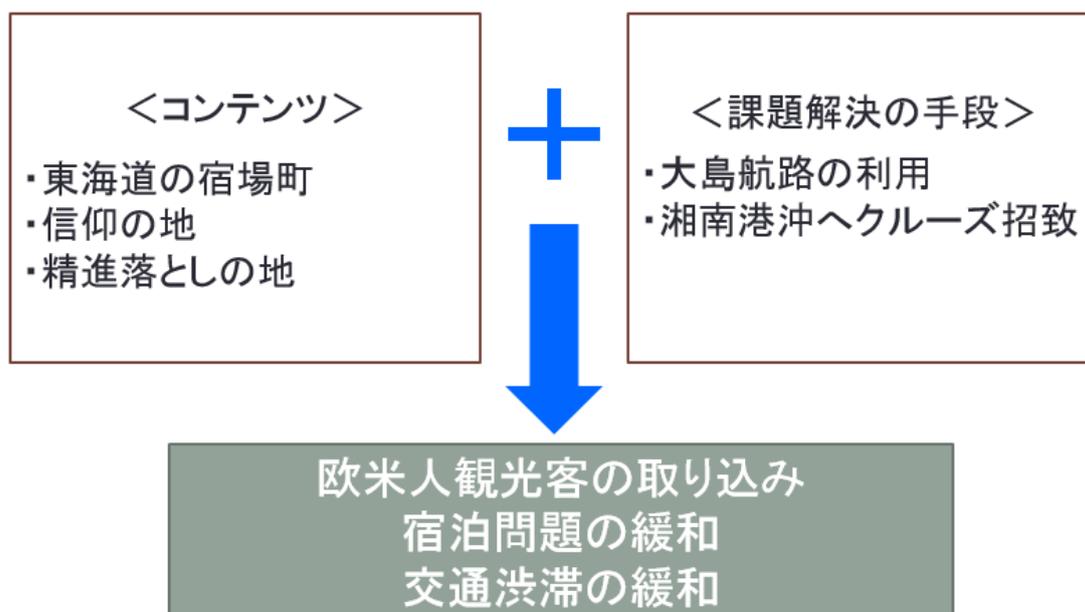


図11：エキゾチック JAPAN（筆者作成）

このテーマでの主なターゲットは欧米富裕層である。なぜなら欧米富裕層は、図 12 のようにアジア圏、特に中国、香港、台湾、韓国と比べ、自然、景勝地観光や日本の歴史・文化体験に高い関心を示しているからだ（観光庁、2014 年）。同様に、スイス生まれのステファン・シャウエッカー（2014、p.95ff）も外国人が選んだ日本百景のコラムの中で、日本でしたい 7 つのことを挙げている。その中には「お寺、神社、お城、日本庭園を見たい」とあり、自分の国にない建築物を見たいという期待があることが分かる。特にヨーロッパ人にその傾向があるようだ。また、「温泉旅館に泊まりたい」や「富士山を見たい」などもある。セーリングのファン層も白人で高等教育を受けた者が一般的だ。

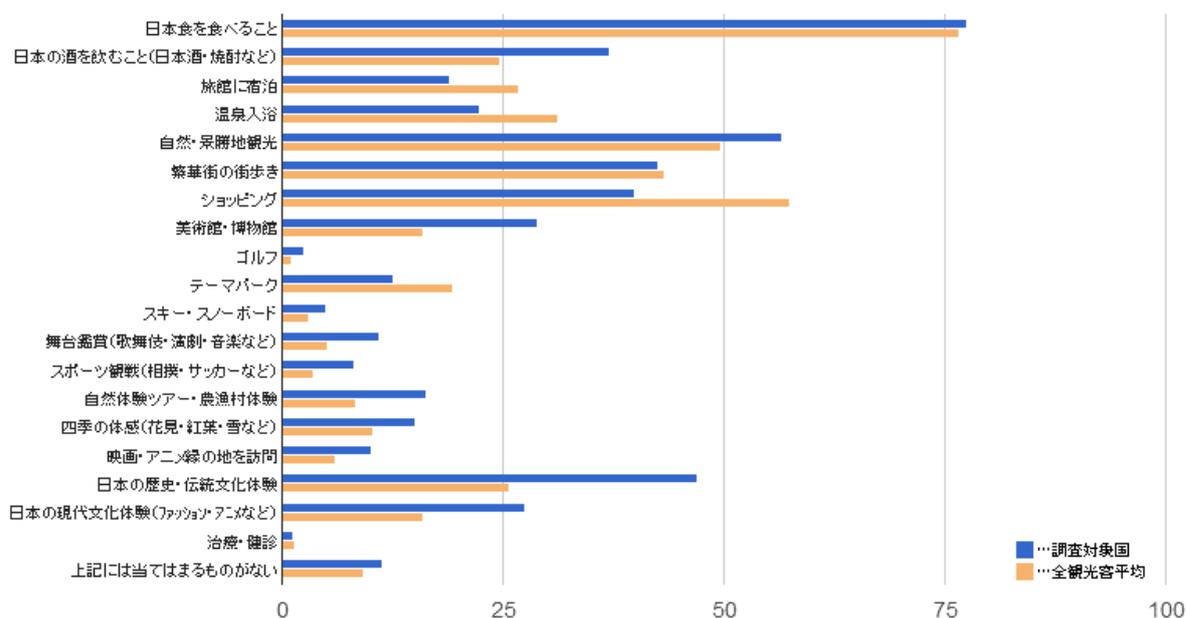


図 12：米国からの旅行者の旅行目的（訪問前・複数回答／2014 年 7 月～9 月期）
（観光庁、2014 年）

そこで、私たちが最初に目をつけたのは観光の中での光の側面でもあり、信仰の地として全国的にも有名なのが江の島である。福德・諸芸能上達の神として広く信仰されている弁財天もある。江の島は、江島縁起^④によれば、欽明天皇の 13(551)年に弁財天女が降居していたという、古い由緒の島と言われている。鎌倉幕府の日記『吾妻鏡』には、源頼朝や実朝などの参詣や祈念があった事も記されている。その後戦国時代になっても古河公方足利氏や小田原北条氏なども弁財天へ武運長久の祈念をしたりしている文書が残っているとおり、弁財天を祀る聖なる島として古くから知られていた。江戸時代に入ると「江の島詣」や「江の島道」という言葉が定着するほどまでに人気を集め、特に庶民階層の信仰に支えられた島となった（八幡、2000）。

また、藤沢文庫刊行会（1985）は江の島を次のように記している。「江の島は古く『絵の島』『柄の島』ともいわれ、江の島弁財天を祀る信仰の島として親しまれている。一番良い風景は、七里ヶ浜あたりから富士を眺めた風景だ。見る人に神秘的で詩的な幻想を与える。

そのためか、古くから文人墨客⁶⁾が往来した」。

江の島には、文政 4(1821)年、銘のある青銅の鳥居をくぐりぬけ、両脇にみやげや物店などが並ぶなだらかな坂道をのぼっていくと、良真（鶴岡八幡宮寺供僧）が 3 代将軍源実朝に申請して創建したといわれる辺津宮がある。社殿の左にある弁天堂には、鎌倉初期の作といわれるヒノキ材の寄木造の八臂弁財天坐像と、琵琶をかかえ、ふっくらとした体つきで妖艶な鎌倉期の作といわれる妙音弁財天像⁶⁾、（俗に裸弁財天といわれる、写真 9 参照）、日本三大弁財天の 1 つが祀られている（神奈川県高等学校教科研究会社会科部会歴史分科会、2005）。



写真 9：妙音弁財天像

藤沢文庫刊行会（1895、p.10ff）によると、天正 18(1590)年に小田原北条氏が豊臣秀吉に降伏して、関八州を領したのは徳川家康であった。徳川家康は関東八州（相模(さがみ)・武蔵(むさし)・安房(あわ)・上総(かずさ)・下総(しもうさ)・常陸(ひたち)・上野(こうずけ)・下野(しもつけ)の 8 か国）を占領してから「鷹狩」と称し関東各地を視察した。当時は各地に休泊施設が完備されていなかった。そうしたこともあり、後に家康は、関東各地に自身の休泊のために御殿や御茶屋を設置した。藤沢にも御殿が設置された（藤沢文庫刊行会、1985）。

第 2 項 東海道の宿場町としての歴史

藤沢宿が東海道五十三次の 1 つということは広く知られている。東海道五十三次とは、江戸時代の徳川家康が整備した五畿七道のうち、東海道にある五十三の宿場を指す。当時の浮世絵や和歌の題材にも取り上げられた東海道は、現在でも多くの人に旅された由緒あ

る街道だ。道中には、有名な名所・旧跡が多く、本陣や旅籠、問屋場などの諸施設が整えられている。藤沢市ふじさわ宿交流館（2016）によると藤沢宿は東海道の江戸日本橋から数えて6番目の宿場である。すでに戦国時代から、小田原北条氏が弘治1(1555)年に藤沢大鋸町に伝馬(てんま)を置くなど、交通上の要地であったが、慶長6(1601)年に駅制が定められるにあたって藤沢宿として整備され成立した。

江戸時代の藤沢宿の規模としては、天保14(1843)年の「東海道宿村大概帳」に、宿内人口4,089人（男2,046人、女2,043人）で、総家数919軒、旅籠（はたご）45軒、大名や公用の旅客の宿泊施設である本陣^⑥が1軒、脇本陣^⑦が1軒と記されていた。また、享和3(1803)年の記録では脇本陣は2軒。同書から神奈川県内各宿場の人口・家数・旅籠数を見ると、当時の藤沢宿は人口では城下町であった小田原宿、大きな湊でもあった神奈川宿に次いで多かったものの、旅籠数は比較的少なかったことが分かる（藤沢市ふじさわ宿交流館、2016）。

第3項 精進落としの地としての歴史

みちくさ学会（2010）によると、「精進」とは、一心に仏道修行することを言う。そのためには、「不許葷辛酒肉入山門（葷酒（くんしゅ）山門に入るを許さず）」と言われるように、修行する者は、精力のつく野菜（五葷）、酒、肉については、欲情を刺激して身体がけがれるという理由で食べることが許されなかった。同様に、修行の妨げになる（けがれる）として、社寺や霊場への女性の立ち入りを禁じる慣習も生まれ、これは「女人禁制（よにんきんせい）」と呼ばれていた。「女人禁制」の身近な例としては、「相撲の土俵に、女性は上がってはならない。」「大阪・岸和田だんじり祭（写真10参照）で、女性はだんじりに乗ることはできない。」などがある。



写真 10：大阪・岸和田だんじり祭

実際、1990年の東京両国国技館での大相撲初場所千秋楽に、内閣総理大臣杯を手渡そうとした森山真弓内閣官房長官は、日本相撲協会から、土俵にあがることを拒否された（みちくさ学会、2010）。「女人禁制」は、江戸時代以降、奇妙な性風俗を生み出した。女性を聖地から排除しておきながら、聖地で修行を終えた男性は、聖地の近くに設けられた遊廓で「精進落とし」と称して買春を行った。「精進落とし」とは、もともと「四十九日の忌明けに、それまでの酒や肉を絶った質素な食事から通常の食事に戻す。」ことを言うが、これがいつの間にか、「性の抑圧に耐え、修行を乗り越えた後のご褒美？」というような、男性にとって都合の良い解釈がされるようになった（みちくさ学会、2010）。

以上を踏まえ湘南藤沢の影の部分に焦点を当てたとき、見えてくるのは売買春やギャンブル（精進落とし）ではないだろうか。江の島巡礼後に羽目を外してお金を使い、豪華な食事と芸者遊び。歴史教育者協議会（2001、p.89ff）によると、近世の女性の身分、特に江戸時代において女性は、村や町という身分制の基礎となる集団の運営からは厳しく排除されていた。村や町による女性の疎外は、村・町の運営という面でのみ行われたわけではなく、性の売買という面からも強いられていた。江戸時代の宿場町は、飯盛女・茶立て女などさまざまな名称で呼ばれる女性を宿屋や茶屋に置いて性の売買を行わせ、村や町の財政のたしにすることが多々あった。当初幕府は、売買春を制限していたが、やがてこれを黙認した。さらに幕府自らも江戸市中の遊郭からの収益に依存し、遊郭を通じて情報を集めるなどして治安維持の手段として利用した。

藤沢市には、創業 350 余年古今かわらぬおもてなしで伊藤博文など多くの旅人達から愛されてきた宿、恵比寿屋がある（楽天トラベル、2002）。また、鎌倉時代よりある旅館、岩本坊はのちに岩本院となり江の島、三宮の総別当職を務めた。以来 750 年有余年の永い歲月の中で芝居、講談、小説など、数々の名作に岩本院の名は取り上げられ、広く世に語り継がれている。明治初年以後、岩本楼と改名し文人墨客⁽⁴⁾をはじめ多くの人々に愛されてきている（楽天トラベル、2002）。このような由緒ある贅沢な旅館での芸者遊びを提案したい。湘南藤沢地域では、夜にすることがないことも宿泊観光客が少ない原因の一つである。したがって、欧米富裕層でも楽しめる夜の遊び、芸者というのはどうだろうか。

第 1 項、第 2 項、第 3 項を踏まえ、すなわち歴史観光の資源で欧米富裕層を取り込むことを提案する。第 1 項で述べたように、日本の歴史・文化体験は欧米富裕層には影響力が大きい。特に、芸者、日本三大名物である、「忍者」、「侍」、「芸者」は、未だに力強いインパクトがある。芸者目当てに宿泊してもらい、日帰り観光客を減らす。信仰の地を巡礼したり、過去の宿場町を感じてもらいながら歩いてもらったりすることで交通渋滞の緩和に繋がる。

第2節 大島航路を利用した新たなルート

私たちの班は、湘南藤沢の問題である宿泊施設不足や交通渋滞を緩和するために、大島航路の利用を考えている。大島へは、湘南港からジェット船に乗り約1時間で行くことができる。昭和40(1965)年から昭和49(1974)年までは、江の島から伊豆大島への直航便が定期運航されていた。しかし、利用客の減少のため廃止となった。湘南港から大島への航路は、期間限定でツアーなどは開催されているが定期的に運航されていない。最近、東海汽船主催で行われたツアーは日帰りプランである。このツアーには、コースが2つあり、料金は7,980円からである。また往復切符のみの料金は7,000円である。また大島には、多くの観光資源がある。三原山ハイキングや島1周サイクリング(6コースある)、マリンスポーツ、温泉などがある。これらの観光資源は、欧米観光客に適している。

図 13 : 江の島発着大島/神津島ツアー
(東海汽船、2016)

また大島を訪れた観光客たちが、宿泊も可能になるようにしたいと考えている。現在、大島には海のふるさと村とトウシキキャンプ場という宿泊施設がある。どちらも約100人が宿泊できる場所である。この2つのキャンプ場に加えて、大島に現在初島で人気のあるトレーラーハウスをつくることを提案する。初島トレーラーハウスは、首都圏から一番近い離島である初島にある宿泊施設である(図14参照)。トレーラーヴィラというキャンピングカーのようなものに宿泊する(写真11参照)。



図 14：初島の位置



写真 11：初島トレーラーハウス
(初島アイランドリゾート、2016)

広さは約 21 平方メートルである。アジアンテイストのエキゾチックな雰囲気味わいながら、ゆったりとしたプライベートな時間を過ごせる。初島トレーラーハウスは、普段日常では味わえない、異空間を体験することができる。このような宿泊施設を大島に作ることであれば、観光客も宿泊したくなるのではないかと考えた。

上記の内容だけでは、宿泊問題の大きな解決にはならない。大島航路を提案する 1 番の目的は、観光客の動線を変えることである。鎌倉や富士山には行くが、藤沢に来ない人々を引き込むために、大島という新しい目的地をアピールすることで、藤沢周辺を回遊させ、宿泊してもらうという提案である。

第 3 節 湘南港沖へのクルーズ船の招致

先日、にっぽん丸が藤沢市の江の島沖に立ち寄り乗客は、通船に乗り片瀬漁港へ上陸し

た。にっぽん丸とは、総トン数 2 万トン、乗客定員 524 名の大型客船である。今後もこのような大型客船を呼び込み、観光客誘致をするために湘南港沖へのクルーズ船の誘致をしたいと考えている。日本のインバウンド政策の中でクルーズ船招致は重要なポイントになりつつある。平成 27(2015)年度の日本の港湾への寄港回数は、1454 回と過去最高の記録であった。港湾別の寄港回数では、横浜湾が第 3 位で 125 回であった。

表 1：港湾別のクルーズ船寄港回数

| 合計 | | |
|----|-----|-----|
| 順位 | 港湾名 | 回数 |
| 1 | 博多 | 259 |
| 2 | 長崎 | 131 |
| 3 | 横浜 | 125 |
| 4 | 那覇 | 115 |
| 5 | 神戸 | 97 |

横浜港では、平均して月 10 船入港している。多くの客船は、約 1 日寄港し、次の港湾へ向かう。にっぽん丸が藤沢市の江の島沖に立ち寄った際、地元住民も観光客のおもてなしに協力した。このように地元住民に歓迎されたら、観光客も良い思い出になるのではないか。横浜港に滞在しているクルーズ船を湘南港に呼び込むことができれば、湘南藤沢に興味を持ちまた訪れたいと思えるのではないか。私たちの班では、湘南港から近い横浜湾に寄港しているクルーズ船を湘南港沖に呼び込むことを提案する。

第5章 世界に通用するアジアのさわやか

第1節 横のりスポーツの拠点としてのコンテンツ

第1項 セーリング

本章では、「世界に通用するアジアのさわやか」というテーマで、第4章とは異なる切り口で提案していきたい。湘南藤沢にある資源をどういかせるか、持続性の高いツーリズムとは何か考えたい。湘南藤沢にあるコンテンツとしては、横のりスポーツ（サーフィン、スケボ）やエコ、公害克服、Fujisawa サステイナブル・スマート・タウン（SST）、相模湾の生物多様性である。また、手段としては国際大会の招致・開催、スポーツツーリズム人材の育成・活用、スポーツ用品産業の巻き込み、湘南藤沢のブランド形成をはかりたい。

世界に通用するアジアのさわやか

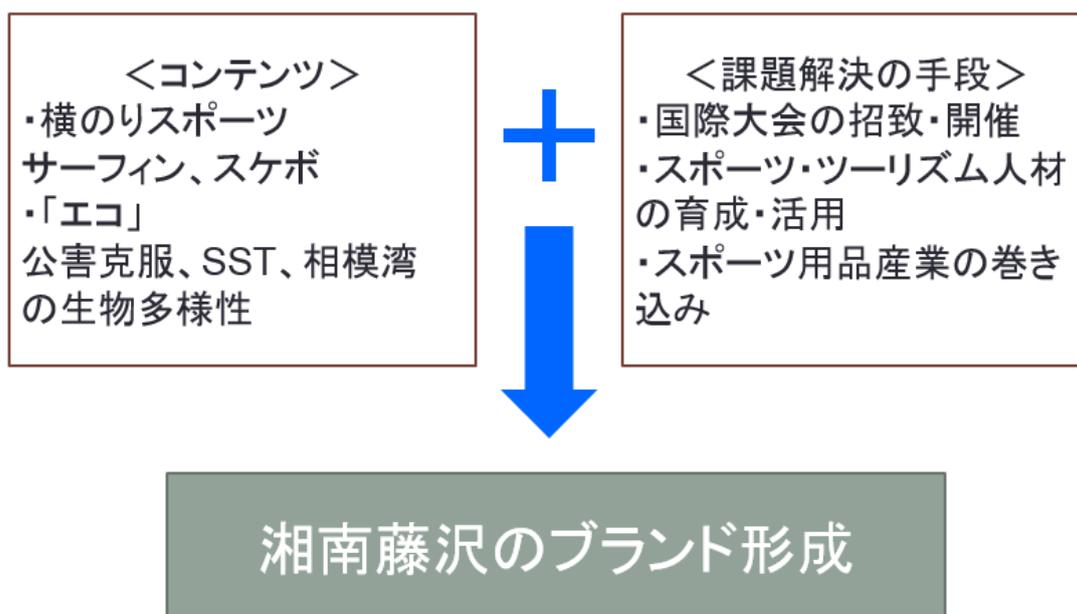


図 15 : 世界に通用するアジアのさわやか(筆者作成)

藤沢市は前回の東京オリンピックでセーリングの競技開催地だった。前回大会時に競技を行うために整備されたヨットハーバーは今もなお、ヨットや船などが停泊している。現在も競技を行うのには水域の広さや風の強さなどを含め、環境がベストである点から、次回の2020年東京オリンピック・パラリンピックでもセーリングの競技開催地に選ばれている。このことからすでにセーリングという競技では拠点として知名度もあり、市内でセーリングの競技体験などもできる。過去の大会から湘南藤沢とセーリングが密着していることがわかる。

しかし、セーリングは競技人口が少ないという点が一つの問題点と考えられる。藤沢市には、小・中学生向けのセーリングクラブが存在し、合宿などを通じた活動や、大会に出場することで、競技の魅力を子供達に伝えている。また、母体が藤沢市ヨット協会のクラブも存在し、地域から競技を盛り上げている点なども含め、競技と地域がマッチングしている点も観光に役立つコンテンツの一つと考えられる。そこで競技選手育成などを行い、それによって誕生した選手が各大会などで活躍することで、地元の競技に対する興味関心の向上が予想される。地域に関する競技の発展と共にそれらに関するグッズや物を通して魅力の拡大が考えられる。観光の面でも、体験型観光としてセーリングを提案していくことにもつながると考えられる。

第2項 サーフィン

湘南藤沢が日本におけるサーフィンの歴史発祥の地である。昔から現在まで多くのサーファーが湘南藤沢でサーフィンを楽しんでいる。それは藤沢周辺のサーフィンスポットの多くが、波が穏やかで、初心者に対して楽しみやすい場所であることが関係している。現在では、サーフィン文化が地元で根付いており、都内から近くてサーフィンが楽しめる場所としても栄えている。現在湘南藤沢ではサーフィンの大会やスクールが開催されている。主にムラサキスポーツと藤沢市観光協会が協力して企画、運営をしている。こうした大会の開催などは現在湘南藤沢に来ている観光客とは違う種類の人を呼び込めると期待ができる。

第3項 スケートボード

スケートボードは2020年東京オリンピック・パラリンピックで公式種目に初めて追加された。サーフィンカルチャーが地域に根付いている湘南藤沢では、多くのサーファーが気軽に横乗りスポーツを楽しみたいという点からスケートボードを藤沢周辺でやっていた歴史がある。また周辺には多くのスケートパークが存在する事と、スケートスポットが多くあることから、スケートボードを楽しみやすい環境とも考えられる。

サーフィンカルチャーが地元で根付いていることで、スケートボードに対して地域住民の理解度が高いことも一つのコンテンツと言える。そこで今回の公式種目への追加によっ

て、爽やかでカッコいいスポーツへとイメージチェンジすることが期待できる。

現在は台風の影響で壊れてしまったが、日本に4か所しか存在しない、「ランページ」が藤沢市には存在した。この施設は各国際大会などで使用されるものであり、それが存在したことからも藤沢市がスケートボードと綿密な関係にあることがわかる。これらを修理することで、藤沢市が日本で有数のスケートスポットになれる可能性が考えられる。

第2節 資源としての「エコ」

第1項 環境問題を克服した過去

藤沢市は平成12(2000)年に(株)荏原製作所藤沢工場の焼却炉から洗浄をしていない汚染水が流していたことから、市内の引地川にダイオキシンが流出し、社会的影響を与えてしまった過去がある。国の定期検査から、川に異常があることがわかり、異常の詳細が分かった平成12(2000)年3月21日の翌日には県と国に報告し、最終的に同年3月24日には問題の施設を機能停止し、その後環境回復に向けて活動を始めた。ここで特筆すべき点は、市の対応である。具体的には、半月に一度という短いペースで現状の調査報告を行い、地域住民への情報提供が徹底されていたという点。また、地域住民の不安を必要以上に膨らませないために、生活に関する質問などを受け付け、具体的に返答をすることで、安心感を持たせた点などが良いと言え、藤沢市の環境問題に関する姿勢がわかる。最終的にこの問題が解決したのは平成23(2011)年で、約10年の間このダイオキシン流出問題の解決に向けて、中長期的に向き合ってきた。

第2項 藤沢市地球温暖化対策実行計画

藤沢市は、平成23(2011)年の東日本大震災をきっかけに変化している、原子力発電の現状や電力事業を考え、今後電力の温室効果ガス排出量が増えていくと考え、「藤沢市温暖化対策実行計画」を提案し実行している。

平成2(1990)年の藤沢市における、温室効果ガス排出量を基準に何%削減するか目標値を決めている。実際に、基準となる平成2(1990)年の排出量は、378万2982(t-CO₂)となっていて、平成32(2020)年までの目標を40%と高く決めている。平成23(2011)年ですでに21.4%の削減に成功している。また、近くの茅ヶ崎市が20%、鎌倉市が16%と設定している。茅ヶ崎市、鎌倉市と比較すると目標指数が高く、市の環境問題に対する意識の高さが伺える。計画の内容は、以下のようにまとめられる。

- (1) 市民・地域・行政の力を活かした地域からの行動
- (2) 環境に優しい都市システムによる低炭素社会の創造
- (3) エネルギー地産地消を見据えた再生可能エネルギーの活用とマネジメント
- (4) 環境への負担を軽減し、未来へ繋げる循環型社会の実現
- (5) 市民や事業者を牽引する行政の率先的取り組み
- (6) 民間事業者を誘導する仕組みの実現

これらを柱とし、40%削減に向けて対策を実施していくとされている。

(1)は市民・事業者・NPO 法人等・大学・行政の力を最大限に活かし、協力しながら全員が主体で実践できるように役割を明確にして進めていく。

(2)藤沢市では交通量が多い点などを踏まえ、環境への影響の少ない交通システムやEV(電気自動車)等を最大限利用した低炭素なまちづくりを進める。また、三大谷戸(川名清水谷戸・石川丸山谷戸・遠藤笹窪谷)を中心とした里山の保全を進めることで、温室効果ガスの吸収を行う緑(植物)を守る政策を拡大し充実していく。

(3)エネルギー地産地消の実現に向けて、再生可能エネルギー(太陽光・太陽熱・バイオマス)の普及に努めながら、省エネ・創エネ・蓄エネの手法を最大限に活用しながら、政策実現に向けて活動していく。

(4) 廃棄物等の発生を抑制・再利用・再使用・熱回収・適正処分これらの対処に優先順位をつけ、かつ地域の特性や循環資源の性質に応じた適正な規模の循環を作成することで、温室効果ガスの削減を目指す。また、雨水や下水の有効利用を推進していく。

(5)市民・事業者・NPO 法人・大学・行政が連携して取り組みを進めていくには、行政が率先して先進的な取り組みをしていく必要がある。この取り組みは藤沢市が、茅ヶ崎市・寒川町と2市1町で展開している「湘南エコウェーブプロジェクト」。近隣自治体と都市連携のように市の域を超え広域的に進めていくことが重要だと考えられる。このプロジェクトの2市1町は今回我々が湘南藤沢と定義している場所と一致し、湘南藤沢をより良くするために必要だと言える。

(6)藤沢市は今後しばらく人口が増加すると予想されている。人口の増加に伴い、町の発展が予想され、工事などの影響で一時的に温室効果ガスの排出量が増加すると考えられる。そこで、一定規模以上の開発時に必要な工事や開発計画において、温室効果ガスの発生を抑える方策を入れることを義務化し、事業者も協力して町の発展はしながらも、環境に優しいまちづくりを目指していく。

第3項 Fujisawa サスティナブル・スマート・タウン

藤沢市では Fujisawa サスティナブル・スマート・タウン (以下 SST) をプロジェクト化し、人と地域に優しいまちづくりを目指している。単に最先端の街を作るのではなく、究極の理想的な街を作るために、地元の企業と藤沢市が官民一体で進めていくプロジェクトである。大きな特徴は1000世帯もの家族の営みが続くリアルなスマートタウンとして、技術先行のインフラ起点でなく、住人ひとりひとりの暮らし起点の街づくりを実現することである。藤沢市は100年ビジョンを掲げ、それを達成するためにタウンデザインとコミュニティデザインのガイドラインを設けた。その目標を共有した住人たちが暮らし、交流し、より良い暮らしをつくるアイデアを出していくことで、住人の生の声をタウンマネジメント会社が吸いあげ、新しいサービス・技術を取り入れ、サスティナブルに街を発展させ

続けている。そうした、暮らし起点の画期的な仕組みが、エネルギー、セキュリティ、モビリティ、ウェルネス、コミュニティ、さらに非常時までを想定し、暮らしのあらゆる場面で「生きるエネルギー」を生みだし続けていく街づくりをしている。

エコでスマートな暮らしを実現することができる街を作るのが、「Fujisawa SST」であり、このプロジェクトには平成 28(2016)年 3 月の時点で 19 社以上の企業が参画している。持続的な街を作るために現在は生成・構築期として、この先 100 年を見据えたまちづくりを行っている。このプロジェクトのキーワードに「エコ」が入っており、具体的な内容は、街の中に自然豊かな環境を取り入れることや、電気自動車の利用、レンタルサイクルの展開などを上手く利用して、Co2 の排出を抑える事が取り入れられている。

また、食についてだが湘南藤沢には、京野菜のように地元の名前がついた湘南野菜がある。湘南野菜出荷推進協議会に加盟している組合や農家の方が生産した全ての野菜を「湘南野菜」と呼んでいる。湘南野菜の特徴は鮮度のよさである。近郊で収穫した新鮮野菜を地元スーパーで販売し、地産地消を推奨している。平成 6(1994)年に消費生活に対する安心安全・品質保証・技術力向上、さらには地産地消を推進するために商標登録されたブランドである。

以上のように湘南藤沢には「エコな街としての潜在力」があり、それらを観光の魅力としても発信していくことができると考える。

第 3 節 スポーツ用品産業の巻き込みと人材の育成・活用

第 1 項 スポーツ用品産業の巻き込み

現在関東圏を中心に店舗を拡大している、スケートショップ「instant」などの企業に注目すると、今後人気が高くなることが予想されるスケートボード用品専用の商品展開などでスポーツ用品産業という点から地域の活性化を考える。具体的には、スケートボードには裏面のデザインがあり、それぞれの個性を出している。そのデザインを湘南藤沢の海や、江の島にするなどで、湘南藤沢の個性を出したスケートボード用品の開発ができると私たちは考える。

実際に、日本発のスケートボードブランドである「Evisen」は日本兜をスケートボードにデザインしたものなどで、現在は海外にも商品を展開している。このような日本発のスケートブランドが注目されている点を考え、インバウンドが増加する東京オリンピック・パラリンピックに向けて、湘南藤沢ブランドを作ること、地域活性化につながるのではないかと考える。



写真 12 : 「Evisen」のスケートボード

次に、スケートボードは消耗品である点に注目し、スケートボードをリサイクルして新しい物を作り出すことが現在行われている。商品としては、サングラスやスマートフォンケース・時計・椅子などになっている（写真 13 参照）。今回の「エコ」という点から、このリサイクル商品を湘南藤沢ブランドづくりの一環に取り入れることで、湘南藤沢をより、魅力的な場所にする事ができると私たちは考える。

第 2 項 人材育成

競技人口が多くないスケートボードでは、子供に関心を持ってもらい競技の浸透度を高くすることが必要だと考えられる。そのためには人材育成という面が重要である。実際に「instant」では現在定期的に千葉・お台場などでスケートスクールを開催し、10代から50代までの幅広い世代に参加してもらっている現状がある。募集開始から1日で60人の枠が埋まってしまうなど人気である。その中でも魅力なのは、プロのスケーターが教えることで正しく、より安全にスケートボードを楽しむことである。さらに親子で参加しコミュニケーションの一環としてスケートボードを楽しむことができる。そのスケートボード教室を藤沢で行うことで、より地域とスケートボードを結びつけることが期待できる。

さらに湘南藤沢には大学が多く存在する。横乗りスポーツとエコをかけあわせた展示会やイベントなどを誘致し、スタッフとして学生の派遣や多摩大学の施設を展示会場と



写真 13 : スケートボードリサイクル (サングラス、スマートフォンケース)

して利用してもらうなど、湘南藤沢を盛り上げるために学生の力を利用することも重要だと考えられる。

おわりに

本論では、第 1、2 章で、湘南藤沢の解決すべき課題について考察した。今回の研究では、湘南藤沢を 2 市 1 町、藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町と定義した。湘南藤沢はレストランやお店の閉店時間も早く、夜に楽しめるものがないため日帰り観光地という位置付けになっている。これには、宿泊施設不足も大きく影響している。また、江の島から鎌倉に向かう道は各 1 車線しかなく、車の交通渋滞にしばしば悩まされている。江の島に集中する観光客の飽和状態も安全面なども考えると深刻である。江の島にしか人が来ないのである。鎌倉、横浜、箱根に比べ知名度が低く、ブランド力も不足している。鎌倉に来ている欧米人観光客の取り込みがうまくいっていないことも分かった。

第 3 章では、平成 32(2020)年東京オリンピック・パラリンピック、セーリング開催地としてスポーツツーリズムの可能性に迫った。現存の観光プランでは明らかにできていなかった日本の魅力や奥深さをスポーツという新たな切り口で発見できる。新たな切り口から国際イベントの開催件数増加にも繋がる。スポーツツーリズムは、観光旅行のきっかけにもなり経済効果にも著しく影響する。湘南藤沢は、向こう 3 年間はセーリングの国際大会、ワールドカップ、オリンピック・パラリンピックの開催地ではあるが、競技人口やファン層が少ないこともあり、セーリングはメインの観光資源にはなれない。しかし、現在では、それほど注目されていないが、湘南藤沢は横乗りスポーツ（サーフィンやスケートボード）の拠点となっており、横乗りスポーツの聖地として売り出す可能性も発見した。

そこで、第 4 章、第 5 章で現在ある湘南藤沢の資源、コンテンツを整理しブランドづくりの柱を見出すとともに、第 2 章で明らかにした現状の課題解決の手段を探った。第 4 章は、「エキゾチック JAPAN」として信仰の地、東海道の宿場町、精進落としの地としての歴史ツーリズムを軸に、大島航路の利用、湘南港沖へのクルーズ招致を考案した。それらは、欧米人観光客の取り込み、宿泊問題の緩和、交通渋滞の緩和のためである。歴史観光の資源で欧米富裕層を取り込む。贅沢で夜遊びが出来る旅館に泊まってもらい、宿泊観光客を増やす。信仰の地を巡礼したり、過去の宿場町を感じてもらいながら歩いてもらったりすることで交通渋滞の緩和に繋げる。大島航路を提案し、観光客の動線を変える。つまり、鎌倉や富士山には行くが、藤沢に来ない人々を引き込むために、大島という新しい目的をアピールすることで、藤沢周辺を回遊させ、宿泊してもらおうのである。

次に、第 5 章、「世界に通用するアジアのさわやか」として横のりスポーツ（サーフィンやスケートボード）に注目した。横のりスポーツに関する競技の発展と共にそれらに関するグッズや物を通して波及効果があると考えられる。体験型観光としてセーリングを提案するということも出来る。Evisen など海外に人気が出始めている日本発のブランドを発信するとともに、技術の優れた地元企業と海外企業とのマッチングをすることは、湘南藤沢のブランド形成の核になるのではないだろうか。また、湘南藤沢には環境問題を克服してきた歴史がある。食の資源も豊富であり、エコでスマートな暮らしを 100 年先までみこして目指す Fujisawa SST など環境面で先進的な取り組みもある。このように、エコな街とし

での潜在力を認識することができた。こうしたエコとスポーツツーリズムを組み合わせたイベントを実施するなど、スポーツツーリズム人材の育成、スポーツ用品産業の巻き込みを熟考した。

本論文を執筆中に、IR 法案が衆参議院を通過した。今後は日本ならではの IR の構想が求められることになる。本研究の成果を活かしさらなる提案を行うために、来年の研究の視点をいくつか示したい。寺島 (2015、p.124ff) は、日本の魅力を次のように述べている。「一度、凝り始めたら底知れない魅力を発見できる懐の深さがある、多様な要素の組み合わせにこそ、日本のポテンシャルがあり、その総体に着目し、大事に観光戦略として要素を総合的に組み合わせていくべきではないか。これが、日本の観光立国や統合型リゾートを構想するときのベースになる考え方だと思われる」。インターゼミの最終発表では寺島学長から、「統合型リゾートとしてまとめるには、どのようなアイデアが必要か」という観点から次のようなアドバイスを頂いた。歴史×スポーツを考える中で、博物館や美術館×ICT(情報通信技術)のコラボレーションが可能である。凸版印刷株式会社の技術を利用し、東海道五十三次の景色や風景、浮世絵をアーカイブにして電子美術館を運営する。また、湘南藤沢地域に湘南藤沢で撮影された映画、ドラマを見られる施設を造るなど。スポーツ競技者の合宿所や練習施設のあるスポーツ・コンプレックスをつくったり、横乗りスポーツの国際大会を開催できる環境を整備することで、横乗りスポーツの聖地化を行うことも、今後の研究課題になる。これらの要素を総合的に組み合わせることで、湘南藤沢ならではの IR の提案も可能になるだろう。

〈注〉

注(1)統合型リゾート(IR)とは、会議(Meeting)、研修旅行(Incentive Travel/Tour)、国際会議(Convention)、展示会(Exhibition/Event)を目的とした MICE 施設、ホテル、ショッピングモール、レストラン、劇場・映画館、アミューズメントパーク、スポーツ施設、カジノなどが一体となった複合的な観光施設を中核とするトータルな観光資源である

注(2) 観光立国推進基本計画とは、観光立国基本法により政府が平成 19 年 6 月に策定した観光立国実現のためのマスタープラン

注(3) オリンピアードとは、古代ギリシャで、オリンピア祭と次のオリンピア祭との間の四年間。紀元前 776 年の第 1 回古代オリンピックからギリシャ人はこれを基準として年代を数えた。

注(4)「江島縁起」は江の島一山の惣別当であった岩本院の宝物として伝来したもので、絵巻物の体裁をとり原本ではなく模本である。

注(5)文人と墨客。詩文・書画などの風雅の道にたずさわる人。

注(6)世にいわれる「日本三大弁財天」とは、安芸の宮島、近江の竹生島、江の島の弁財天のこと。

注(7)本陣は天皇のおつかいである勅使や、公家、大名、公用で旅をする幕府の役人などが宿泊するための施設。本陣だけに宿泊できないときに、予備にあてた宿舎が脇本陣だ。本陣と脇本陣は一般の旅籠屋と違い、特権として門、玄関、書院を設けることができた。

補足資料

1. フィールドワーク

日時

2016年5月21日(土) AM11:00~PM4:00 片瀬江の島周辺

参加者

学生：阿部慎吾、荒井綺花、森川和洋、田中優希、坂本尚平

教員：田中孝枝、巴特尔、安田震一

訪れた場所

片瀬江の島駅 → 観光案内所 → ヨットハーバー → 湘南海岸公園（記念碑、セグウェイ） → 昼食 → スラムダンクの踏切

訪問理由

- ・観光案内所 情報収集のため。
- ・ヨットハーバー 昭和39(1964)年東京オリンピックの遺産を調べるため。
- ・ニエ・アル記念碑 歴史ツーリズムのコンテンツのため。
- ・セグウェイ 交通渋滞の解決のため。
- ・スラムダンクの踏切 アニメ・ロケ地観光のため。



写真 14：片瀬江の島駅

電車から降りてすぐの駅の中のトイレで長蛇の列であった。トイレの道も狭く不便である。エキゾチックなイメージに合っている。



写真 15：観光案内所（正面）

片瀬江の島駅から歩いて徒歩3分弱。中は狭く人が溢れていた。



写真 16：観光案内所（左側）

外から見るとよりも実際の中は小さい作りだ。



写真 17：観光案内所（中）

英語、韓国語、中国語（簡体字・繁体字）、タイ語のパンフレットがあった。



写真 18：ヨットハーバー付近の施設

平成 32(2020)東京オリンピック・パラリンピック、セーリング競技の開催地についての横断幕が飾ってあった。地元でも大変意義のあるような雰囲気だ。



写真 19 : ヨットハーバー付近の施設

ヨットの帆の写真、平成 32(2020)東京オリンピック・パラリンピック使用であった。



写真 20 : 施設内の広告

体験セグウェイの広告。



写真 21：施設内の掲示版（オリンピック関連情報）

今後の流れや運営についての情報が書かれていた。

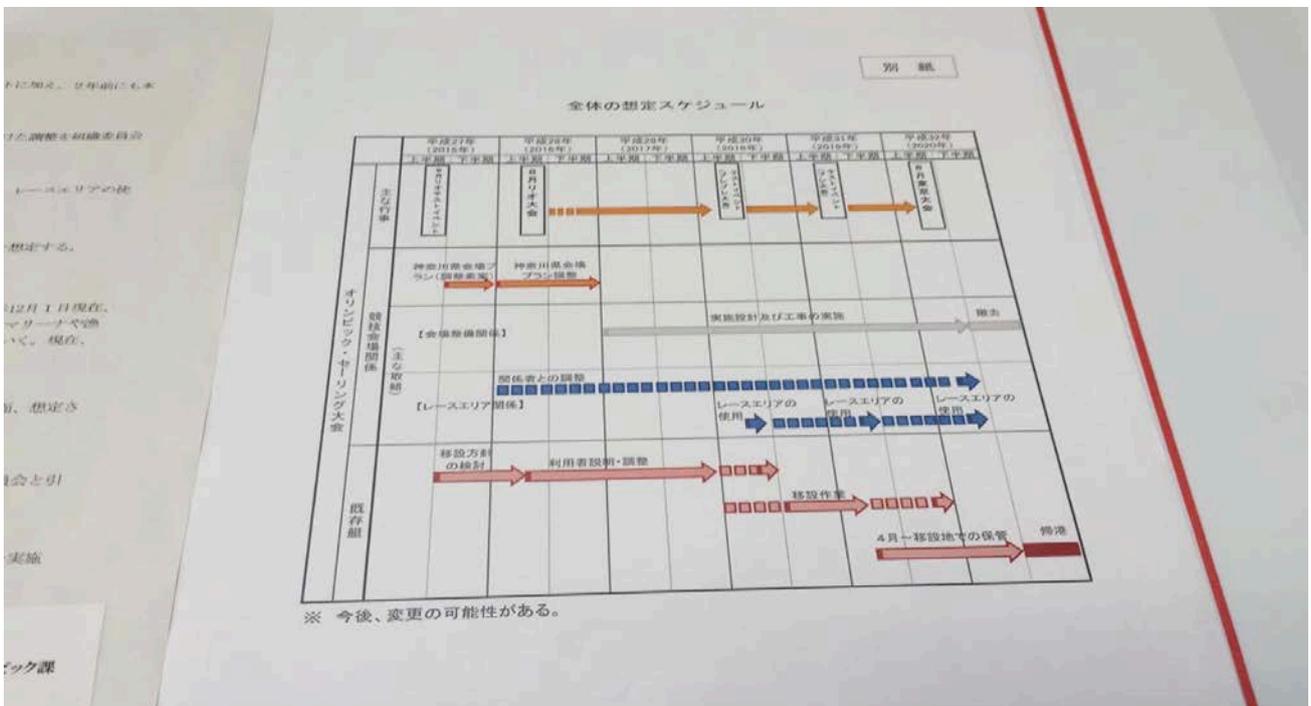


写真 22：施設内の掲示版（オリンピック関連情報）拡大図 全体の想定スケジュール

平成 27(2015)年から平成 32(2020)年の向こう 5 年間、本番までの流れ。

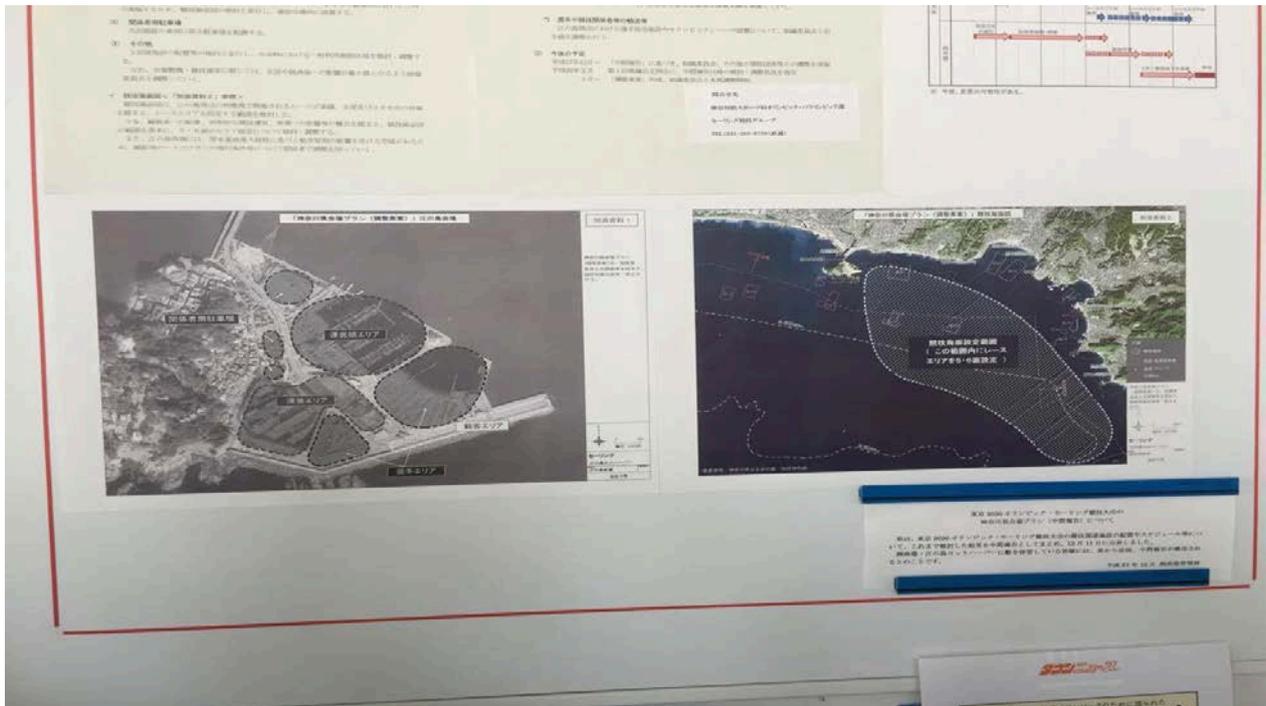


写真 23：施設内の掲示板（オリンピック関連情報）拡大図 地形

大まかな地理情報も書かれていた。



写真 24：レンタサイクル用自転車

比較的新品に近いきれいな自転車であった。



写真 25 : 大型帆走クルーザー「やまゆり」

大型帆走クルーザー「やまゆり」は昭和 39(1964)年東京オリンピック時に作られた。神奈川県が海外・国内の来賓用クルーザーとしてやまゆりを建造し、警備艇としても大活躍。



写真 26 : 神奈川県警察船

海の上でも警察は必要である。



写真 27 : 昭和 39(1964)年の東京オリンピック記念碑

写真で見ても分かるように色あせている。



写真 28 : 弁財天と世界女性群像噴水池

立ち止まって見る観光客は少なかった。



写真 29 : 湘南海岸公園①

5月であるのかかわらず大変賑わっていた。



写真 30 : 湘南海岸公園②

若い観光客が多かった。



写真 31 : セグウェイ試乗

セグウェイの試乗は駐車場利用者のみで駐車券が必要。貸出時間も5分から10分でセグウェイも一台しか見当たらず試乗している人は見かけられなかった。



写真 32 : デニーズ江ノ島店

江の島カラー、海の色のだニーズ。本来は黄色一色の外観だ。



写真 33 : ニエ・アル記念碑

中国の国歌を作詞した人物、雲南省昆明出身。留学中に鵠沼海岸で亡くなった。藤沢市は昆明市と姉妹都市提携を結び交流活動を行っている。



写真 34 : 江ノ電鎌倉高校前駅

片瀬江ノ島から 2 駅。この日は徒歩で向かった。歩行者の駅までの道が極端に狭く細い道あった。



写真 35 : アニメ「スラムダンク」の舞台となった踏切①

漫画『スラムダンク』を知らない人は、ただの踏切に過ぎない



写真 36 : アニメ「スラムダンク」の舞台となった踏切②

多くの訪日外国人が訪れていた。特にアジア系（中華系）が多かったように感じた。



写真 37 : アニメ「スラムダンク」の舞台となった踏切③

踏切周辺に漫画『スラムダンク』についての説明書きや看板はなかった。

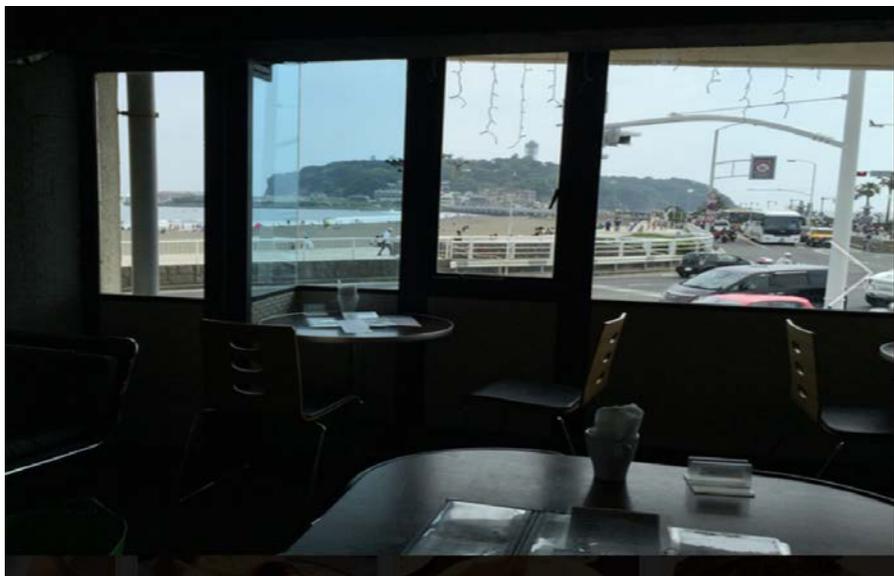


写真 38 : i-na cafe 江ノ島店 (イーナカフェ) 江の島ビュータワー2 階

片瀬江ノ島駅から3分。レストラン、カフェ、ダイニングバー、色々な顔を持ち合わせるカフェ。鎌倉野菜やしらす料理、神奈川ブランド牛の足柄牛も魅力的。



写真 39 : 生しらす丼セット



写真 40 : 釜揚げしらす丼



写真 43：ブラックソルトソフトクリーム

竹灰とハワイ産のブラックソルト使用。深い甘みがやみつき的美味しさ。

3. 藤沢市のフィルム・コミッション事業

湘南藤沢フィルム・コミッション（映画等の撮影場所誘致や撮影支援をする機関）について紹介する。

湘南藤沢の地域を舞台とした映像作品が公開や放映されることは、その地域が「知られる」ことに過ぎない。地域活性化は、知られた「場所」「事柄」「物語」「歴史」など、その集合体の“地域”が動き、地域の活動が持続性をもって展開することで地域活性化をすることが出来る。

湘南藤沢フィルム・コミッションによって起こる経済効果は以下のとおりだ。

- 滞在費用・機材レンタル・ロケセット等 ⇒ 【直接経済効果】
- マスメディア等への露出 ⇒ 【情報発信】・【地域への誇り】
- 観光客等の増加 ⇒ 【間接経済効果】
- 撮影隊サービス業 ⇒ 【雇用や新事業の創出】
- 創作活動の活発化・地域文化の見直し ⇒ 【文化振興】
- 新しい観光・地域資源の発掘・発信 ⇒ 【新たな魅力の発掘】
- 地域への愛着心、チームビルディング ⇒ 【コミュニティ形成】

湘南藤沢にはドラマ、映画、アニメのロケ地が豊富にある。ドラマは「太陽と海の教室」や「ヤンキー君とメガネちゃん」など、映画は「海街diary」や「海月姫」など、アニメは「スラムダンク」や「Fate/zero」などの舞台があり、湘南藤沢には映画、ドラマなどのロケ地が1000ヶ所程ある。アニメ聖地は1008ヶ所あり日本で東京の次に多い地域だ。

藤沢市では、ロケ誘致による観光振興、地域活性化を目的に、平成14(2002)年9月に湘南藤沢フィルム・コミッションを設置。年平均150件程度のロケ支援実績があり（24年度は172件）。その結果、平成24(2012)年の藤沢市の観光客は約1500万人となり10年前の約1.8倍に増加しており、直接効果で約3,500万円、テレビCM広告料に換算した間接効果で約54億円の経済効果があった。現在、湘南藤沢フィルム・コミッションは活動開始から15年が経ち、制作された作品のロケ地は1000件を超えている。多くの撮影を誘致することで、撮影関係者による宿泊・飲食料や観光客増加による経済効果ばかりでなく、地域の情報発信やPRの機会の増加などの成果を上げている。これらのことを考え、湘南藤沢フィルム・コミッションの活動は観光振興、地域活性化に有効であり着実に成長していると言える。

現在は、アニメ、漫画の舞台となった土地の聖地巡礼と、キャラクターを使った町おこしが盛んになっている。成功例としては「らき☆すた」の埼玉県久喜市、「あの日見た花の名前を僕たちはまだ知らない」の埼玉県秩父市、ガールズ&パンツァーの茨城県大洗市、「たまゆら」の広島県竹原市、「花咲くいろは」の石川県金沢市などが挙げられる。アニメの人氣に影響されるものの聖地巡礼目的の観光客増加が見込める。

しかし、問題となるのがアニメや漫画のポルノ的要素で、世の中に認められていない部分が多く存在することだ。そのため、地元住民とのトラブルが発生することが多くある。例として挙げるが、平成 27(2015)年に岐阜県美濃加茂市とアニメ「のうりん」がスタンプラリーの PR をするため、ポスターを 22 枚作り Twitter に投稿すると、「胸が卑猥だ」「セクハラだ」と、特に女性を中心に批判が殺到することがあった。最終的には、聖地巡礼ということもあり、フォーカスがその土地自体ということで、構図の変更で問題が収まった。この例は女性キャラクターの性的描写が強かったということで批判の声が上がったが、逆に、男性キャラクターの性的描写が強かった場合は、一部の BL 好きのユーザーには受け入れられるが、今度は男性を中心に批判が出てくると予想ができる。

アニメ、漫画を使うことで国内外のオタクを呼ぶことにより湘南藤沢はより発展する。そのために湘南藤沢の地元住民の協力と、自治体、企業、団体の連携が必要になってくる。アニメの聖地巡礼であれば、アニメの世界観に触れたいというユーザーとアニメを使って盛り上げていこうと思っている地元住民の温度感がマッチした時に相乗効果で成功につながるのであって、否定的な人がいるのは論外だが、温度感が違っても大成功へは発展しない。

様々なバランスが重要で、対象となる客層、目的、地元住民への理解、ユーザーの反応を見つつ展開することがアニメ、漫画の聖地巡礼化や町おこしのカギになる。

参考文献

著書

一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構編『スポーツツーリズム・ハンドブック』(学芸出版社、2015年) 24頁

神奈川県高等学校教科研究会社会科部会歴史分科会編『神奈川県の歴史散歩』(山川出版社、2005) 150頁

藤沢市教育委員会『湘南の誕生』(藤沢市教育委員会、2005)

ステファン・シャウエッカー『外国人が選んだ日本百景』(講談社、2014) 95頁

寺島実郎『新・観光立国論』(NHK出版、2015) 45頁、100頁、124頁

藤沢文庫刊行会編『藤沢史跡めぐり』(名著出版、1985) 10頁、133頁

八幡義信『神奈川の東海道(下)遙かな時代の道の賑わい』(神奈川東海道ルネッサンス推進協議会、2000) 150頁

歴史教育者協議会編『学びあう 女と男の日本史』(青木書店、2001) 89頁

ウェブサイト

裏テラスハウス物語「新居・旧(古い)テラスハウスの外観・間取り・住所場所・最寄り駅のまとめ」出典:

<http://niche-domain-news.jp/terrace-house-family/801.html/> (参照日: 2016年12月20日)

江島神社「江島神社について: ご祭神」出典:

<http://enoshimajinja.or.jp/gosaijin/> (参照日: 2016年12月23日)

神奈川県「セーリング競技特設ページ」出典:

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f532787/> (参照日: 2016年12月23日)

鎌倉市「景観地区」出典:<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/keikan/keikantiku.html>
(参照日: 2017年1月12日)

鎌倉・江ノ島・湘南「鎌倉・江ノ島方面」出典：

http://tabi.iinaa.net/JapnPass/kanagawa_kamakura.html (参照日：2016年12月6日)

鶴沼三丁目デザイン「江の島から伊豆大島・新島へフェリーで直行。東海汽船『大島航路』」
出典：

<http://kugenuma-3c-design.jp/%E6%B9%98%E5%8D%97%E6%83%85%E5%A0%B1/1167/> (参照日：2016年12月23日)

公益財団法人日本オリンピック委員会「セーリング」出典：

<http://www.joc.or.jp/sports/sailing.html> (参照日：2016年12月23日)

公益財団法人日本セーリング連盟「LATEST NEWS」出典：

<http://www.isaf.or.jp/hp/> (参照日：2016年12月23日)

公明党「IR法案、衆院委可決」出典：

https://www.komei.or.jp/news/detail/20161203_22237 (参照日：2017年1月12日)

国土交通省「景観地区と準景観地区」出典：<http://www.mlit.go.jp/common/000191087.pdf>
(参照日：2017年1月12日)

産経WEST「『セクハラ』胸を隠し作業着姿…新ポスター公表、配布へ 美濃加茂市観光協」
出典：

<http://www.sankei.com/west/news/151207/wst1512070082-n1.html> (参照日：2016年12月25日)

湘南藤沢フィルム・コミッション「FC概要」出典：

<http://www.shonanfujisawa.jp/summary/fcsummary.html> (参照日：2016年12月25日)

湘南藤沢フィルム・コミッション「News」出典：

<http://www.shonanfujisawa.jp/> (参照日：2017年1月11日)

湘南プロムナード「湘南の映画メディア」出典：

http://m-y-star.com/shonan_story/yuhodo_birth/mass_media.shtml (参照日：2016年12月23日)

湘南プロムナード「湘南の発祥」出典：

http://m-y-star.com/shonan_story/yuhodo_birth/origin.shtml(参照日:2016年8月28日)

湘南野菜出荷推進協議会「湘南野菜をご自宅までお届けします!!」出典:

<http://www.shonan-yasai.com/> (参照日:2016年12月6日)

スポーツツーリズム推進連絡会議「スポーツツーリズム推進基本方針

～ スポーツで旅を楽しむ国・ニッポン ～」出典:

<http://www.mlit.go.jp/common/000160526.pdf> (参照日:2016年8月18日)

政令指定都市市長会「政令都市とは」出典:

<http://www.siteitosi.jp/about/about.html> (参照日:2016年12月13日)

第2章 本市における地球温暖化対策の戦略「1 温室効果ガス排出量の将来予測」出典:

<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kankyous/machizukuri/kankyo/shisaku/ondanka/documents/000385764.pdf> (参照日:2016年12月20日)

東海汽船「江の島発着 伊豆大島・神津島ツアー『10/20・21 出発』」出典:

http://www.tokaikisen.co.jp/info/info_0000687.html (参照日:2016年12月23日)

東京都オリンピック・パラリンピック準備局「セーリング」出典:

<http://www.2020games.metro.tokyo.jp/taikaijunbi/taikai/syumoku/games-olympics/sailing/index.html> (参照日:2016年12月23日)

中岡裕章「江ノ島における日帰り観光の実態」出典:

http://www.nichidaigeog.jp/GANU/backnumber/pdf/0053_02_03.pdf (参照日:2016年12月19日)

2015年我が国港湾へのクルーズ船寄港回数及び訪日クルーズ旅客数について「確報」出典:

<http://www.mlit.go.jp/common/001133419.pdf> (参照日:2016年12月23日)

箱根町「平成27年度観光客数」出典:

<http://www.town.hakone.kanagawa.jp/index.cfm/11.4552.54.202.html> (参照日:2016年12月19日)

はじめまして鎌倉「江の島の由来と歴史」出典:<http://123kamakura.com/2016/11/03/163/>

(参照日:2016年12月20日)

初島アイランドリゾート「トレーラーヴィラ」出典：

https://www.pica-resort.jp/stay/hatsushima/island_trailervilla/4291/（参照日：2016年12月23日）

藤沢市「観光客統計表」出典：

<http://www.fujisawa-kanko.jp/stat/kankou.pdf>（参照日：2016年12月19日）

藤沢市観光課「藤沢市観光客数統計表」出典：

<http://www.fujisawa-kanko.jp/stat/kankou.pdf>（参照日：2016年12月6日）

藤沢市青少年セーリングクラブ「NEWS & TOPICS」出典：

<http://www.f-ssc.com/>（参照日：2016年12月20日）

藤沢市ふじさわ宿交流館「藤沢宿の紹介」出典：

<http://www.fujisawakanko.jp/fujisawashukukouryukan/kyutoukaido/fujisawashuku.html>（参照日：2016年12月5日）

みちくさ学会「(精進落とし)で賑わった遊里跡」出典：

<http://michikusa-ac.jp/archives/1329922.html>（参照日：2017年1月12日）

みやじ豚.com「株式会社みやじ豚会社概要」出典：

<http://miyajibuta.com/company/>（参照日：2017年1月12日）

宮地勇輔の農業プロデュース論「みやじ豚が農林水産大臣賞を受賞！！」出典：

<http://miyajibuta.livedoor.biz/archives/51334099.html>（参照日：2017年1月12日）

横浜市港湾局「横浜港客船入港予定」出典：

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kowan/cruise/schedule/2016.html>（参照日：2016年12月23日）

楽天トラベル「岩本楼本館」出典：

http://travel.rakuten.co.jp/HOTEL/84915/84915.html?s_kwid=paidsearch&k_clickid=b28a4bdc-0c92-4bcc-b484-f48c0e9f1710（参照日：2016年12月23日）

楽天トラベル「湘南江の島 御料理旅館 恵比寿屋」出典：

http://travel.rakuten.co.jp/HOTEL/15437/15437_std.html (参照日：2016年12月23日)

早稲田大学「セーリング競技の競技継続状況」出典：

<http://www.waseda.jp/sports/supoka/research/sotsuron2013/1K10C446.pdf> (参照日：2016年12月23日)

BBC NEWS「Olympic sailing events saw visitor drop to Weymouth and Portland」出典：

<http://www.bbc.com/news/uk-england-dorset-20000863> (参照日：2016年12月23日)

BBC NEWS「Weymouth and Portland Olympic legacy chances 'missed」出典：

<http://www.bbc.com/news/uk-england-dorset-24994440> (参照日：2016年12月23日)

BLOGOS「外国人観光客は何を期待して日本に来ている？国別の傾向をグラフ化してみた。」

出典：

<http://blogos.com/article/104027/> (参照日：2016年11月18日)

BULKHEAD magazine JAPAN「世界のヨットレース、セーリングニュース&コラム バルクヘッドマガジン」出典：

<http://bulkhead.jp/tag/%E5%A4%A7%E5%B3%B6%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%82%B9/> (参照日：2016年12月23日)

BULKHEAD magazine JAPAN「相模湾伝統の第64回大島レース今週開催！」出典：

<http://bulkhead.jp/%E7%9B%B8%E6%A8%A1%E6%B9%BE%E4%BC%9D%E7%B5%B1%E3%81%AE%E7%AC%AC64%E5%9B%9E%E5%A4%A7%E5%B3%B6%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%82%B9%E4%BB%8A%E9%80%B1%E9%96%8B%E5%82%AC%EF%BC%81/> (参照日：2016年12月23日)

Clear Inbound Library「『通過型観光から滞在型観光へ』、奈良県が富裕層マーケットへの新たな挑戦！」出典：

<http://clair-inbound.net/nara/> (参照日：2016年12月6日)

dorsetforyou.com「Legacy tourism, housing and other benefits」出典：

<https://www.dorsetforyou.gov.uk/article/410535/Legacy-tourism-housing-and-other-benefits> (参照日：2016年12月6日)

FOODIE らしさに会える食メディア「湘南生まれの地の利が生きた湘南野菜を使った料理

の魅力」出典：

<http://mi-journey.jp/foodie/5927/> (参照日：2017年1月12日)

FOURSQUARE「ファミリーマート 鎌倉山ノ内店」出典：

<https://ja.foursquare.com/v/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%9F%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%9E%E3%83%BC%E3%83%88-%E9%8E%8C%E5%80%89%E5%B1%B1%E3%83%8E%E5%86%85%E5%BA%97/53e6f768498e4d22b9626d41/photos> (参照日：2016年12月23日)

FusisawaSST「プロジェクト概要」出典：

<http://fujisawasst.com/JP/> (参照日：2017年1月12日)

TOPPAN「製品・サービス」出典：

http://www.toppa.co.jp/products_service.html (参照日：2016年12月23日)

WAVAL「『国内最大のサーフィンフェス』ムラサキ湘南オープン2016開催！」出典：

<http://waval.net/53076/> (参照日：2016年12月20日)

World Sailing「Rankings」出典：

http://www.sailing.org/rankings_table.php?includeref=ranking26302&rankdiscipline=2&ranktype=2&rankclass=8&rankdate=latest (参照日：2016年12月23日)

執筆担当

はじめに (森川和洋)

第1章 (阿部慎吾)

第2章 (阿部慎吾)

第3章 (森川和洋、荒井綺花、米倉慎之介)

第4章 (森川和洋、荒井綺花)

第5章 (米倉慎之介、荒井綺花)

おわりに (森川和洋)

補足資料 (森川和洋、高橋昇希)

謝辞

本論文を作成するにあたり、指導教官である田中孝枝先生、巴特尔先生、安田震一先生には終始親身になって添削等をしていただき深く感謝いたします。また、フィールドワークや調査にご協力いただき、貴重なお話をしていただいた大学院修了生の方々、フィールドワークの企画や紹介をしていただいた方々には、考える場、体験する場を設けていただき、大変感謝しております。寺島実郎学長にはご多忙の中、多摩大学社会工学研究会(インターゼミ)を通して、毎週末我々に惜しみなく時間を割いていただきました。そして、大胆かつ繊細な思考、地政学的・歴史的視座、幅広い知見から研究の方向性についてご意見を数多く頂きました。ここに感謝の意を表します。1年間と言う限られた時間の中で論文を執筆するに当たり、活動に理解を示し協力していただいた家族にも感謝致します。この場を借りて今回の論文を執筆するに当たり、協力してくださった全ての方々に御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

2016年度 多摩大学サービス・エンターテインメント班一同